

## 2014年度 JICA公募型インターンシップ・プログラム 募集ポスター一覧

【大学院生】

## ■JICA本部

ポスト番号	配属部署/プロジェクト	募集人数	テーマ
26-本部01	中南米部 計画・移住課	1人	中南米地域の日系社会とのネットワーク強化・次世代人材育成に向けた情報収集調査
26-本部02	中南米部 南米課	1人	南米地域における主要ドナーの地熱開発支援現状調査
26-本部03	アフリカ部 アフリカ第四課	1人	仏語圏中西部アフリカにおける広域支援
26-本部04	中東・欧州部 欧州課	1人	インターン生からの提案により設定
26-本部05	経済基盤開発部 平和構築・都市・地域開発第一課	1~2人	都市開発分野協力に係る都市プロファイルの作成
26-本部06	人間開発部 基礎教育第二課	1人	基礎教育
26-本部07	国内事業部 業務企画課	1人	他ドナーにおける研修事業動向分析調査とりまとめ
26-本部08	国内事業部 業務企画課	1人	JICA研修事業の帰国研修員同窓会の活性化に向けたアクション・プランの作成
26-本部09	研究所	1人	青年海外協力隊（JOCV）の学際的研究の情報収集・分析、及び研究支援業務

ポスト番号	配属部署/プロジェクト	募集人数	テーマ
26-国内01	JICA東京 産業開発・公共政策課	1人	観光振興とマーケティング研修に関する調査業務及び運営補助
26-国内02	JICA筑波 研修業務課	1人	ロシア語で実施される水管理関連の研修コースへの参加及び実施補助（詳細はインターン生と調整して設定）
26-国内03	JICA筑波 研修業務課	1人	アフリカ地域向けの農村開発関連研修コースの実施補助及びとりまとめ（詳細はインターンと調整して設定）
26-国内04	JICA筑波 研修業務課	1人	圃場実験・実習を通じての日本における途上国適応型農業技術の理解促進 （詳細はインターン生と調整して設定）
26-国内05	JICA筑波 研修業務市民参加協力課	1人	気候変動対策分野課題別研修における研修実施運営体験実習
26-国内06	JICA筑波 研修業務市民参加協力課	1人	教育分野課題別研修における研修実施運営体験実習
26-国内07	JICA関西(希望実習内容により決定)	2人程度	研修員受け入れ事業
26-国内08	JICA関西 市民参加協力課	1人	市民参加協力事業（インターン生からの提案により設定）

## 2014年度 JICA公募型インターンシップ・プログラム 募集ポスター一覧

【大学院生】

## ■JICA在外事務所

ポスト番号	配属部署/プロジェクト	募集人数	テーマ
26-在外01	カンボジア事務所(カンボジア日本人材開発センター)	1~2人	カンボジア日本人材開発センター (CJCC) のService & Culture部門(文化交流・広報・マーケティング、顧客対応等を担当する部門)における業務補助
26-在外02	ネパール事務所(ネパール事務所および各プロジェクト事務所)	1人	ネパール国JICA事業にかかる広報活動支援 (①農業・農村開発、②都市開発・地域開発、③教育、④水資源、防災)
26-在外03	バングラデシュ事務所 (BRAC)	1~2人	農村信用 (農民向けマイクロファイナンス) に関する事業モニタリング及び評価
26-在外04	フィリピン事務所(小児呼吸器感染症の病因解析・疫学に基づく予防・制御に関する研究プロジェクト)	1人	小児呼吸器感染症の病因解析・疫学に基づく予防・制御に関する研究プロジェクトにおける調査関連業務補助
26-在外05	ベトナム事務所(ハノイ公共交通改善プロジェクト)	1人	バス交通利用促進のための計画づくり・各種パイロット活動実施補助
26-在外06	ベトナム事務所(ベトナム災害に強い社会づくりプロジェクトフェーズ2)	2人	プロジェクト対象地域の河川における河岸保護施設の効果検証
26-在外07	ミャンマー事務所(ミャンマー・日本人材開発センター(MJC))	1人	インターン生からの提案により設定 (可能であれば、ミャンマー民間セクターと日本民間セクターとのネットワーク構築に資するテーマやアセアン経済統合におけるミャンマーの位置づけに関するテーマを期待します。)
26-在外08	ラオス事務所(ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト)	1人	ラオス水道セクターの業務・運営管理改善 (現状・問題分析及び改善方法の模索、実践)
26-在外09	ラオス事務所(ラオス都市開発管理プロジェクト)	1人	首都ビエンチャンにおける土地利用計画、用途地域規制、景観規制の作成
26-在外10	ラオス事務所(ビエンチャンバス公社運営能力改善プロジェクト)	3人まで	ビエンチャン市の「バス交通でまちづくり」、バス公共交通の政策、計画、運営
26-在外11	モンゴル事務所(JICAモンゴル事務所/UN-Habitat/アジア財団)	1人	ゲル地区における生活環境改善を目的としたJICA/UN-Habitat/アジア財団による取組を通じた住民・コミュニティの意識・行動変容にかかる調査
26-在外12	パレスチナ事務所(希望実習テーマにより設定)	1~2人	インターン生からの提案により設定
26-在外13	ヨルダン事務所(実習テーマにより決定)	1人	インターン生からの提案により設定
26-在外14	ヨルダン事務所(サルト市における持続可能な観光開発プロジェクト)	1人	ヨルダンにおける観光セクターの課題と展望～サルト市におけるコミュニティ・ベースド・ツーリズムを事例にして～
26-在外15	ウガンダ事務所(コメ振興プロジェクト)	2人まで	稲作振興
26-在外16	ガーナ事務所(天水稲作持続的農業開発プロジェクト)	1人	「天水稲作持続的農業開発プロジェクト」補助及びインターン生からの提案による稲作関連の調査・研究
26-在外17	ケニア事務所	1人	BOPビジネス連携促進
26-在外18	ケニア事務所	1人	JICA事業広報支援業務

## 2014年度 JICA公募型インターンシップ・プログラム 募集ポスター一覧

## 【大学院生】

ポスト番号	配属部署/プロジェクト	募集人数	テーマ
26-在外19	ケニア事務所(再生可能エネルギーによる地方電化推進のための人材育成プロジェクト(BRIGHTプロジェクト))	1~2人	①再生可能エネルギー技術適用事例研究、②再生可能エネルギー適正技術改良研究 (詳細な実習テーマはインターン生からの提案により設定)
26-在外20	ザンビア事務所(授業実践能力強化(STEPS)プロジェクト)	1人	地方の小中学校の授業及び授業研究の継続的な観察と結果のデータ整理
26-在外21	スーダン事務所(水供給人材育成プロジェクト・フェーズ2)	1人	給水人材育成事業のインパクト調査、給水・衛生現場における事業補佐
26-在外22	スーダン事務所	1人	スーダンにおける政府開発援助(ODA)事業の広報
26-在外23	スーダン事務所(希望実習テーマにより設定)	1人	インターン生からの提案により設定(ビジネス関連)
26-在外24	スーダン事務所(希望実習テーマにより設定)	1人	インターン生からの提案により設定
26-在外25	スーダン事務所(「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクト)	1人	ネリカ稲の栽培技術、圃場管理、試験データの収集・分析
26-在外26	セネガル事務所(セネガル理数教科改善プロジェクトフェーズ2)	1人	セネガル国「理数教科改善プロジェクトフェーズ2」における授業研究およびエンドライン調査にかかる業務補助
26-在外27	セネガル事務所	2人	JICAセネガル事務所における業務全般補助
26-在外28	セネガル事務所(希望実習テーマにより設定)	1人	インターン生からの提案により設定
26-在外29	マラウイ事務所(シレ川中流域における農民による流域保全活動推進プロジェクト)	1人	普及アプローチの相違性と効果の比較・検証
26-在外30	モザンビーク事務所(希望実習テーマにより設定)	1人	モザンビークにおける農業開発についてインターン生からの提案により設定
26-在外31	モザンビーク事務所(希望実習テーマにより設定)	1人	インターン生からの提案により設定
26-在外32	ニカラグア事務所(初等教育算数指導力向上プロジェクトフェーズ2)	1人	「初等教育算数指導力向上プロジェクトフェーズ2」における算数指導ガイド改定と授業研究を通じた指導力向上
26-在外33	エルサルバドル事務所	1人	移民経済のダイナミズムを開発協力に応用する方法の検討 (具体的なテーマはインターン生からの提案により設定)
26-在外34	ホンジュラス事務所(「国家保健モデル」に基づくプライマリーヘルスケアプロジェクト)	1人	ホンジュラス農村地域を中心とした地域保健活動のためのコミュニティ調査と活動計画策定支援
26-在外35	ドミニカ共和国事務所(カリブ地域における漁民と行政の共同による漁業管理プロジェクト)	1~2人	FAD(集魚装置)漁業と魚籠漁業の自然科学および社会経済調査

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部01
■担当部署：	中南米部 計画・移住課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
中南米地域の日系社会とのネットワーク強化・次世代人材育成に向けた情報収集調査			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>中南米地域にはブラジルを中心に約170万人の移住者・日系人が存在する。これらの日系人は政治、経済、教育、文化など、多分野で活躍し、移住先国の発展に寄与するとともに、日本との「懸け橋」となって二国間の関係緊密化に重要な役割を果たしている。</p> <p>JICAは、戦後の国の政策によって中南米などへ渡航した移住者の定着と安定のため、これまでに生活環境整備、医療衛生環境整備といった支援を実施してきた。また、日本での研修を通じた日系人材の育成や、海外移住資料館を中心として、広く一般の人々、特に次代を担う若い世代に海外移住・日系社会の知識の普及を図っている。</p> <p>他方、今後の日本の将来を考え、「貴重な外交資産」や「イコール・パートナー」等といった視点から、日系社会との関係深化・再構築が重要なテーマとなっている。そのためには、日本と日系社会の各層、各世代におけるネットワークの更なる強化が必要となるが、とりわけ、将来の日系社会を担う若手人材の育成が重要な課題である。こうした人材育成は、これまでJICAのみならず、政府や地方自治体、大学レベルで取り組まれてきたが、我が国として、より幅広く、かつ効果的な方法を検討するため、以下の調査を実施する。</p> <p>中南米地域への海外移住者およびその子弟の本邦大学進学に対する本邦大学と国や地方自治体、県人会等の連携状況や支援内容、課題について情報収集・分析し、今後のJICAと大学等との関係のあり方について考察し、レポートにまとめる。</p> <p>具体的な内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 移住者子弟の受入実績を有する本邦大学等に対するヒアリング</li> <li>2. 各種連携・支援実績および最近の傾向分析（投入実績を含む）</li> <li>3. 国内有識者へのヒアリング（専門家OB等）</li> <li>4. 分析結果等を踏まえ、今後の日系社会、JICAおよび本邦大学との関係のあり方を提案</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月下旬から1～2か月程度。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 200px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日系社会等への関心・活動経験があることが望ましい。</li> <li>2. 西語・ポルトガル語資料の読解能力を有することが望ましい。</li> </ol>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
関連会議、セミナー、研修等			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
事務スペース、PC、関連資料等			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部02
■担当部署：	中南米部 南米課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
南米地域における主要ドナーの地熱開発支援現状調査			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>南米はボリビア、ペルー、エクアドル等のアンデス諸国を中心に地熱開発のポテンシャルが高く、当課は南米における地熱開発支援に高い優先度を付している。他方、世界銀行、米州開発銀行、アンデス開発公社等の国際開発機関や、ドイツ、イタリア等の他ドナーも同様に地熱開発支援を進めており、補完的な連携協力の可能性が高い。また、民間活力の積極活用を掲げている南米諸国もある中、各ドナーの支援アプローチの特徴を正確に把握し、各国の支援ニーズに即した戦略的な連携協力の在り方も検討していく必要がある。</p> <p>今回募集するインターンは、南米地域における主要ドナーの支援アプローチや、民間活力導入による地熱開発事例を調査し、JICAによる今後の地熱開発支援アプローチ検討に参考情報として役立てる。</p> <p>①既存文献、ホームページ等から、主要ドナーの地熱開発支援事例、民間活力導入による地熱開発実績をレビューしつつ、地熱開発支援の現状、課題等を抽出する。</p> <p>②南米諸国の地熱開発促進方針や公共投資管理制度等の地熱開発に関連する政策・制度を調査し、取り纏める。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬から2015年3月末の間で、1ヶ月～4ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
英語及び／又はスペイン語の文章の読解ができること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
研修期間中に行われている地熱開発関連の本邦研修やイベントがある場合には、同行を前向きに検討する。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机、椅子、PC			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部03
■担当部署：	アフリカ部 アフリカ第四課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
仏語圏中西部アフリカにおける広域支援			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>仏語圏中西部アフリカについては、コートジボワールやセネガル等の比較的人口・経済規模の大きい国がある一方で、マリ、ニジェール、ブルキナファソ等の最貧国が多いことから、個別の国単位の視点のみならず、広域的な観点でこれら地域の開発ポテンシャルを捉える視点が重要になっている。</p> <p>今回募集するインターンは、地域的な観点から仏語圏中西部アフリカ諸国を捉え、主に広域の国際協力業務を学ぶことを目的とし、下記の業務を候補としている。</p> <p>なお、実習時の状況とインターンの希望と専門性等に応じて、実習を割り当てることとし、特定の分野（農業、教育、保健、平和構築、インフラ等）に重点を置くことも可とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中西部アフリカにおける広域インフラ開発に関する情報収集及び分析</li> <li>2. 中西部アフリカにおける地域共同体等の動向に関する情報収集および分析</li> <li>3. サヘル地域情勢・マクロ経済・国家政策・社会開発・国際社会の介入状況等に関する情報収集および比較分析</li> <li>4. サヘル地域をはじめとする広域的な援助計画策定・進捗フォロー補助</li> <li>5. 仏語圏西アフリカの共通開発課題について、日本、JICAとして貢献可能な広域支援策を検討（提案）し、成果レポートをとりまとめる。</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2014年9月末までの間で最大2.5ヵ月間			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏検2級、DELF B1程度のフランス語力を有する者。</li> <li>2. 仏語圏西アフリカ、もしくはTICADVの重点分野（経済成長、社会セクター、平和構築）のいずれかに関する基礎知識及び関心を有していること。</li> <li>3. 将来、仏語圏アフリカをフィールドに活躍することを考えている人材であること。</li> </ol>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
部内外との会議、外出訪問 要人表敬へのオブザーバー参加等			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子・PC			
<b>【在外ホスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部04
■担当部署：	中東・欧州部 欧州課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>欧州課の主な所掌国は、西バルカン地域（旧ユーゴスラビア諸国とアルバニア）、モルドバ、ウクライナ、トルコです。</p> <p>西バルカン地域に対するJICAの支援は「平和の定着」「民間セクター開発」「環境」を重点とし、域内協力、ひいては民族融和に結びつく案件形成と実施に努めています。</p> <p>また、モルドバとウクライナについては「市場経済化」と「社会セクター開発」、トルコに関しては、「持続的経済発展の支援」「開発パートナーとしての連携強化」が支援重点分野です。</p> <p>今回のインターンシップ募集にあたり、当課は特定の実習テーマを指定しませんが、当課所掌国の発展や安定に結びつく協力手法や戦略を研究したい方の幅広い提案を歓迎します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月～2015年2月までの間で1～4カ月間。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<p>「平和の定着」は主に難民・国内避難民の定住・帰還及びその前提となる民族問題が課題となるため、その分野の専攻の者が望ましい。また、「民間セクター開発」「環境」を含む当地域の政策課題は欧州連合（EU）の制度や基準への適合及びEU加盟の促進であることに留意。</p>			
<b>参加（同行）可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境			
<b>【在外ホスト】現地生活費（参考情報）</b>			
■宿泊費： 円／泊    ■食費： 円／日    ■通勤費： 円／日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部05
■担当部署：	経済基盤開発部 平和構築・都市・地域開発第一課	<b>募集人数</b>	1～2人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
都市開発分野協力に係る都市プロフィールの作成			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICAはこれまでに都市に係る課題を解決するため様々な事業協力を展開している。JICAのアプローチでは、特定の層に開発利益が集中することのないよう、綿密な社会経済調査に基づいて計画策定を進めることが特徴であり、都市が抱える複雑な課題を分析し、ダイナミックな発展（経済成長と貧困削減の循環の継続）を支える支援策を作成することが必要となっている。</p> <p>JICAでは、世界各地の都市計画マスタープラン策定に対する協力を通じて、各都市の社会経済データは取得されているものの、その範囲はそれぞれの調査で必要な内容に限定されている。現在JICAでは、過去の事業を通じたナレッジの共有化による事業効果の促進に向けて作業を行っているところである。今後の、都市開発／都市計画分野および都市交通分野の計画策定をより効果的に進める上で、都市課題の比較分析を容易にし、さらにはマスタープランの横断的評価を効率的に行うため、都市課題把握のための各種社会経済指標の共通化と主要指標のデータ整備が必要とされている。今後の都市開発分野の支援を効率的かつ適切に行ない、プロアクティブな案件形成を行うため、主要指標の検討とデータベース化による都市プロフィールの作成が期待されている。</p> <p>今回募集するインターンは、JICAが実施する都市計画策定プロジェクトをベースとして、都市開発支援の計画策定への取り組みに必要な主要指標の検討とデータベース化を作成することを通じて、都市開発支援の業務全般を学ぶことを目的とする。また、インターン自身に十分な知見があれば、これら都市プロフィールを活用した案件実施への関与も期待したい。</p> <p>その他、実施している個別案件の補助的業務や横断的な広報等を通じて業務を体験することも想定している。また、日本の自治体が関与している案件があり自治体の途上国支援（都市開発）について分析を行っていくことも期待したい。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年10月～2015年3月の間で、1か月程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<p>都市開発・都市計画分野を専攻している者、または、土木・建築分野を専攻しており、都市開発・都市計画に関する知識を有している者。</p> <p>パソコン入力の基本的操作を有すること。（ワード、エクセル、パワーポイント）（アクセス、ファイルメーカーの経験があるとさらに望ましい。）</p> <p>以下の条件はあれば望ましいが、無くても可。</p> <p>途上国での勤務や国際協力事業への関与（大学における研修員受け入れ等）の経験があることが望ましい。</p> <p>TOEIC730点 TOEFL550点（GBT2134点、iBT79点）、IELTS6.0以上、英検準1級、国連英検B級以上の英語力を有する者が望ましい。</p>			
<b>参加（同行）可能な行事・視察等</b>			
研修時期に予定されている視察・会議があれば相談の上、参加・同行（東京近辺の施工現場の視察、研修員受入事業の受け入れ先及び修了式等、各種会議など）			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子・PC			
<b>【在外*】現地生活費（参考情報）</b>			
■宿泊費： 円／泊    ■食費： 円／日    ■通勤費： 円／日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
希望実習テーマは相談に応じる。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部06
■担当部署：	人間開発部 基礎教育第二課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
基礎教育			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>人間開発の基盤である基礎教育の改善は国際協力の重要課題です。国連ミレニアム開発目標（MDGs）で、初等教育の完全普及と初・中等教育における男女間格差の解消などが掲げられています。これらの大きな目標に向かって着実に成果を上げるべく、これまでのJICA事業の知見や教訓、日本の経験や教訓などを更に有効に活用していくことが望まれています。</p> <p>今回のインターンシップでは、これまでのJICA事業の知見や教訓、調査研究の成果などが集積されているナレッジサイトについて、よりユーザーが活用しやすいようにサイトの改善を行うことを主な目的とします。この過程でご自身の興味がある分野のJICA事業について学んで頂き、関係する職員や専門家との議論する機会や国内で実施している研修事業の視察などを行って頂くことを想定しています。</p> <p>★参考情報：教育分野のナレッジサイト  <a href="http://gwwweb.jica.go.jp/km/FSubject0101.nsf/NaviSubjTop?OpenNavigator">http://gwwweb.jica.go.jp/km/FSubject0101.nsf/NaviSubjTop?OpenNavigator</a></p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月で1か月程度を想定。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可		理由：受入時期の大幅な調整は困難であるが、多少の調整は可。	
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
「教育開発」分野の専攻の者が望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部07
■担当部署：	国内事業部 研修企画課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
他ドナーにおける研修事業動向分析調査とりまとめ			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICAの研修員受入事業は、1954年の「コロンボ・プラン」加盟を契機にアジア諸国（インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、フィリピン）から16名の行政官を受け入れたのが最初で、途上国の国づくりを担う人材育成のための有効なツールとなっている。昨今では約150の開発途上国から年間1万人を超える研修員を受け入れており、平成23年度末までの累積では29万人に及んでいる。歴史があるJICA研修員受入事業はその質の面で定評があるものの、近年では新興国を含む多くの国々で研修の機会を提供しているため、研修員受入国間での「競争性」が出てきた。この背景を踏まえ、JICAが提供する研修員受入事業の強みや課題を分析し、良質で比較優位のある研修分野・研修実施方法等々について以下の業務を通じて考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既に対象各国で現地調査を終えた他ドナーの研修事業に関する援助動向の報告をとりまとめる。</li> <li>2. 上記報告書から、我が国の研修事業の優位性と課題、今後力点を置く方向性について分析し、対応策のアイデアをまとめる。</li> <li>3. その中から着手できるものについて実施を開始する。</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2015年3月末の間で1か月～3か月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
1. 英語の読解能力を有することが望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
関連会議、セミナー、本邦で行われているJICA研修コース等			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
事務スペース、PC、関連資料等			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部08
■担当部署：	国内事業部 研修企画課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
JICA研修事業の帰国研修員同窓会の活性化に向けたアクション・プランの作成			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICAの研修員受入事業は、1954年の「コロンボ・プラン」加盟を契機にアジア諸国（インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、フィリピン）から16名の行政官を受け入れたのが最初で、途上国の国づくりを担う人材育成のための有効なツールとなっている。昨今では約150の開発途上国から年間1万人を超える研修員を受け入れており、平成23年度末までの累積では29万人に及んでいる。帰国した研修員の中には、東チモールのラモス前大統領、ケニアのオディンガ前首相、モンゴルのエンフサイハン元首相、最近ではモルディブの閣僚のうち、副大統領をはじめとして合計6名の閣僚がJICA帰国研修員であるなど、重要なポストに就く事例も増えており、我が国の外交上重要な役割を果たしている。一方で、帰国した研修員によって各国で組織されている帰国研修員同窓会は「親日家のネットワーク」として機能することが期待されており、その活性化が課題となっている。これらの背景を踏まえ、下記の業務を通じて帰国研修員同窓会の活性化に向けたアクション・プランを作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各国の帰国研修員同窓会の現況をそれぞれの国の帰国研修員同窓会活動報告書等により把握し、課題や好事例等をまとめる。また、JICA関連のみならず帰国留学生など他の親日家ネットワークについても調査する。</li> <li>2. 上記の現況把握から活性化に向けたアイデアをまとめる。</li> <li>3. その中から着手できるものについて実施を開始する。</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2015年3月末の間で1か月～4か月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
1. 英語の読解能力を有することが望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
関連会議、セミナー、本邦で行われているJICA研修コース等			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
事務スペース、PC、関連資料等			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-本部09
■担当部署：	研究所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
青年海外協力隊（JOCV）の学際的研究の情報収集・分析、及び研究支援業務			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>研究所では、様々な学問からのアプローチによりJOCV事業の分析を行い、その社会的、歴史的、国際的な役割や意義について研究を行っている。本研究を通じて、日本の国際社会での地位や日本人の国際貢献のあり方を理解することに貢献するとともに、事業を取り巻く環境の変化に応じた新しい課題（グローバル人材や社会還元など）に如何に取り組むべきか検討することを目指している。</p> <p>以上を踏まえ、インターンには、JOCV研究に関する文献調査および意識調査の実施に関わることが期待されている。具体的な業務実習内容は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>JOCVおよび国際ボランティアに関する日本語・英語文献の収集、整理。</li> <li>JOCV隊員に対して現在実施している意識調査について、データの入力・整理のほか、分析の補助。</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月～10月までの間で1～3ヶ月程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習内容が、応募者自身が進めている研究テーマと関連しており、JICA研究所における実習が応募者本人の研究活動にとって有益であると認められること。</li> <li>・文献読解など研究に必要な英語力を有する者。</li> </ul>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内01
■担当部署：	JICA東京 産業開発・公共政策課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
観光振興とマーケティング研修に関する調査業務及び運営補助			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>開発途上国にとって観光は貴重な外貨収入源であり、雇用創出、他産業への波及効果、地域開発の観点からも途上国の社会経済に対するインパクトは大きい。観光振興に取り組む国々では観光資源の持続可能な開発、インフラ整備、海外からの観光客の受入体制の整備などの諸施策が企画・実施されているが、より一層の充実を望む国が多い。そのためには特に顧客市場（国・地域）の実情を正しく理解し、適切なマーケティングと効果的・効率的なプロモーションを企画・実施できる人材の養成が不可欠である。</p> <p>そのような背景のもと、潜在的な需要力があり、また成熟度の高い観光客市場を持つ我が国に対し、マーケティング及びプロモーション手法を含めた優れた観光事情に関する研修の要請は年々高まってきており、各国の観光振興及び観光マーケティングを担当する行政官、公的機関職員の人材育成を目的に「観光振興とマーケティング」研修を実施してきた。</p> <p>今回募集するインターンは、今年度実施する研修コースに関し、来日前の参加国の観光情報の収集・分析、研修実施中は研修同行による研修運営の補助、プレスリリース等メディアへの研修情報提供の補助等を通して研修受入れ業務および途上国の観光分野の協力を学ぶ。</p> <p>具体的な業務は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加国の観光情報の収集・分析</li> <li>2. 研修員情報の整理</li> <li>3. 観光情報に係るデータ整理</li> <li>4. 研修情報のメディアへの情報提供の補助業務</li> <li>5. 研修運営全般の補助業務</li> </ol> <p>参考情報：  <a href="http://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/report/report106.html">http://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/report/report106.html</a>  <a href="http://gwwweb.jica.go.jp/km/PCourse.nsf/05317d62c1d3ad6349256baa0050fc44/8784bca44948de7e49257b6a0027b5a6?0penDocument">http://gwwweb.jica.go.jp/km/PCourse.nsf/05317d62c1d3ad6349256baa0050fc44/8784bca44948de7e49257b6a0027b5a6?0penDocument</a></p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月上旬～2014年10月下旬の2か月程度。可能な限り研修全日程に参加することが望ましい。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語での情報収集能力</li> <li>2. 基本的なITリテラシー（データをグラフ化する等）</li> <li>2. 観光開発分野への知識・関心があることが望ましい</li> </ol>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
研修（講義、視察等）			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
事務スペース、PC、関連資料等			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内02
■担当部署：	JICA筑波 研修業務課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
ロシア語で実施される水管理関連の研修コースへの参加及び実施補助（詳細はインターン生と調整して設定）			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>当センター所管の「中央アジア・コーカサス地域水利組合振興」コース（2014/07/21-2014/09/20）に参加し、JICA、研修委託先、研修監理員（通訳を兼ねる）と協力して研修実施の補助を行う。</p> <p>その中で</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロシア語での研修業務（語学）</li> <li>2. 農村における水管理（分野課題）</li> <li>3. 中央アジア・コーカサスという地域（地域研究）</li> </ol> <p>という切り口で、インターンの希望にそった実習が可能。</p> <p>1は、研修監理員が配置され全コースが日本語⇄ロシア語通訳で研修が行われ、研修員のロシア語にも触れられるのでコース期間を通じてロシア語のブラッシュアップが可能。</p> <p>2は、講義は日本語で行なわれて、農村における水管理全般について（水利組合に若干重点）研修をし、見学、研修旅行、実習で理解を深めることが可能。</p> <p>3は、中央アジア・コーカサス地域の参加研修員から現地の生の情報を得られる日本国内では稀な機会。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014/07/21-2014/09/20が研修実施期間なので、それをコアとする。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<p>ロシア語、農村における水管理、中央アジア・コーカサス地域を研究課題として取り組んでいる者。</p> <p>ただし、3つの課題の内一つでも専門としているのであれば、参加可能とする。</p> <p>英語力については実務レベルまでは必要としない。</p>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
<p>研修旅行（利根川水系、新潟の土地改良区等）に同行予定。</p> <p>JICA筑波で同時期に行われている農業・農村開発関連の研修については適宜聴講可能（英語で実施）。</p>			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、電話、PC、インターネット環境			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
<p>■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日</p> <p>■その他：</p>			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内03
■担当部署：	JICA筑波 研修業務課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
アフリカ地域向けの農村開発関連研修コースの実施補助及びとりまとめ（詳細はインターンと調整して設定）			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>当センター所管の「アフリカ地域 生活改善アプローチによる農村コミュニティ開発」コース（2014/07/06-2014/08/23）に参加し、JICA、研修委託先、研修監理員（通訳を兼ねる）と協力して研修実施の補助を行う。</p> <p>その中で</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農村開発・参加型開発（分野課題）</li> <li>2. アフリカ地域（地域研究）</li> </ol> <p>という切り口で、本人の意向を踏まえたプログラムの実施調整が可能。</p> <p>また、今回が本コース実施の最終年となるため、本コースの研修員からの聞き取りや、本コース及び「アフリカ地域 小規模農村組織のための生活改善活動と収入創出活動」コースの帰国研修員から提出された帰国後の活動報告をもとに、研修の成果や課題等の分析ととりまとめも期待される。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月～2014年8月下旬の2ヵ月程度（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text" value="2014/07/06-2014/08/23の研修に参加して頂くためなるべく早い開始を希望"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730点以上、TOEFL550点以上（CBT2134点、iBT79点）、IELTS6.0以上、英検準1級以上、国連英検B級以上レベルの英語力を有する者で、かつ農村開発分野、アフリカ地域を研究課題として取り組んでいる者。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
研修旅行に一部（長野県を予定）同行可能予定。 JICA筑波で同時期に行われている農業・農村開発関連の研修については適宜聴講可能。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、電話、PC、インターネット環境			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内04
■担当部署：	JICA筑波 研修業務課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
圃場実験・実習を通じての日本における途上国適応型農業技術の理解促進 (詳細はインターン生と調整して設定)			
<b>インターンシップ内容 (800字程度)</b>			
<p>JICA筑波は農業実地研修のための圃場を自前で有し、所管の各研修コースの目的に従い、同圃場において野菜及び稲作栽培に係る栽培実習、各種実験を行っている。</p> <p>インターン実習生は、JICA筑波における野菜及び稲作栽培研修コースにおいて実施される研修に横断的に関わり、圃場における実験・実習の実施補助を通じて、実際の農業及び農業研修を体験することで途上国に適応させるべき農業技術等の理解を進めていく。</p> <p>また、本インターンシップ・プログラムでは途上国の研修員と直接接する機会も多いので、各国の研修員とのコミュニケーションを通じての語学のブラッシュアップ、各国の農業関連情報の理解をすすめることも可能である。</p> <p>受入対象の研修コースは「小農支援のための野菜栽培技術とマーケティング手法」(2014/2/9-2014/11/8実施)と「アフリカ地域 小規模水稻・普及」(2014/3/16-2014/10/25実施)とするが、場合によっては他の研修コースの実習・実験の補助を行うこともある。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬から2014年10月中旬までの間で最長1か月(4週間)程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
特に無し			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
受入対象コースの見学、研修旅行へは参加可能。また、インターン実習中に実施されている他の農業・農村開発関係の研修コースの講義、実習、見学については関係者と調整の上参加可能。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、電話、PC、インターネット環境			
<b>【在外<sup>※</sup>】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です(但し、一部規程の経費補助あり)			
<b>備考・留意点</b>			
圃場での実験・実習にあたっては、活動しやすい服装(作業服、トレーニングウエア等)が必要。 JICA筑波の更衣室、シャワー室は使用可能。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内05
■担当部署：	JICA筑波 研修業務市民参加協力課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
気候変動対策分野課題別研修における研修実施運営体験実習			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>本インターンシップにおいては、気候変動分野における研修コースについて、実施準備及び実施運営にかかる諸業務の補佐を行う。担当する研修は、課題別研修「気候変動への適応」コース（英語）とし、研修員の事前レポート取り付けやとりまとめなどの事前準備を行うとともに、研修の全期間にわたって同行し、研修員のサポートや連絡調整等、円滑な研修の運営を補佐する。</p> <p>これらの業務を通じ、技術協力の一環としての研修事業の運営管理方法を習得するとともに、講義の聴講、視察への同行を通じて、気候変動対策にかかる世界的な動向や我が国の取り組みの現状と課題等について幅広く学ぶことができる。</p> <p>なお、上記研修コースは、気候変動への適応に関する政策策定に携わる中央行政機関の行政官を対象として、気候変動対策にかかる国際的枠組、我が国の取り組み、気候変動予測・影響評価などに関するセクター別アプローチを中心とした構成となっている。</p> <p>&lt;業務概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修コース実施にかかる事前準備 事前レポートの取付・印刷・配布、関係者との連絡調整等</li> <li>2. 研修コース実施運営に関する業務 連絡調整、研修員のサポート、実施結果のとりまとめ等</li> <li>3. その他 講義聴講</li> </ol> <p>実習の詳細はインターンと調整するも、基本的にはインターンのための特別なプログラムは用意しない。あくまでインターンが当該研修コースの実施に関わることをもって実習とする。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月～2014年10月 約1.5ヵ月			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可   理由： <input type="text" value="研修実施期間（9月末～10月末）及び前後1週間程度"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730点 TOEFL550点(CBT2134点, iBT79点), IELTS6.0以上、英検準1級、国連英検B級以上の英語力を有する者で、気候変動対策に関する基礎知識を有している者。途上国での勤務や国際協力事業への関与（大学における研修員受入等）の経験があることが望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
環境関連研究機関・大学、河川管理事業、民間企業等への視察同行及び講義聴講			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子、パソコン			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊   ■食費： 円/日   ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内06
■担当部署：	JICA筑波 研修業務市民参加協力課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
教育分野課題別研修における研修実施運営体験実習			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>本インターンシップにおいては、教育分野における研修コースについて、実施準備及び実施運営にかかる諸業務の補佐を行う。担当する研修は、課題別研修「へき地教育の振興」コース（西語）とし、研修員の事前レポート取り付けやとりまとめなどの事前準備を行うとともに、研修の全期間にわたって同行し、研修員のサポートや連絡調整等、円滑な研修の運営を補佐する。</p> <p>これらの業務を通じ、技術協力の一環としての研修事業の運営管理方法を習得するとともに、講義の聴講、視察への同行を通じて、我が国のへき地教育の現状と課題を理解するとともに、MDGs（EFA）の達成に向けて取り組むべき教育協力の方向性に関して学ぶことができる。</p> <p>&lt;業務概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修コース実施にかかる事前準備 事前レポートの取付・印刷・配布、関係者との連絡調整等</li> <li>2. 研修コース実施運営に関する業務 連絡調整、研修員のサポート、実施結果のとりまとめ等</li> <li>3. その他 講義聴講</li> </ol> <p>*実習の詳細はインターンと調整するも、基本的にはインターンのための特別なプログラムは用意しない。あくまでインターンが当該研修コースの実施に関わることをもって実習とする。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2015年1月～2015年2月 約1ヵ月			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text" value="研修実施期間（1月下旬～2月上旬）及び前後1週間程度"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730点 TOEFL550点(CBT2134点, iBT79点), IELTS6.0以上、英検準1級、国連英検B級以上の英語力を有する者で、教育分野に関する基礎知識を有している者。途上国での勤務や国際協力事業への関与（大学における研修員受入等）の経験、スペイン語の能力を有している者が望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
公立小学校・研究機関・大学等への視察同行及び講義聴講			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子、パソコン			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内07
■担当部署：	JICA関西	<b>募集人数</b>	2人程度
■受入先：	希望実習内容により決定（業務第一課or第二課）		
<b>テーマ</b>			
研修員受け入れ事業			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICA関西が実施する研修員受入事業</p> <p>1. 業務補助 講師・研修受入先への依頼文書作成、レポート発表会のプログラム作成/記録、研修テキストの印刷/配布、研修関係者・機関のスケジュール調整等</p> <p>2. レポート作成・調査研究 (1) 該当分野に関する情報収集・データベース作成・調査研究 (2) 研修教材コンテンツの開発、研修コース関連業務のドキュメント化</p> <p>3. 研修員福利厚生事業補助 ※JICA関西では、「産業開発」「防災」「環境」等の分野の研修が実施されている。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～10月末の1-3か月			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<p>1. 英字新聞の政治・経済・社会面の記事のある程度理解できること。（作業の大部分は日本語であるが、英文を処理する作業もあり、研修員とコミュニケーションをとる上でも一定の英語力が必要。）</p> <p>2. ワード・エクセル・パワーポイントの基本的な操作ができること。</p>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
<p>研修コース準備中：研修受入先との打合せ同席 研修コース実施中：プログラム・リエゾン、ジョブレポート発表会、講義、実習等視察、研修旅行同行（国内）、アクションプラン発表会、評価会の参加等</p>			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机、イス、PCなどオフィスワークに必要な機材			
<b>【在外ホスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<p>■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：</p>			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-国内08
■担当部署：	JICA関西 市民参加協力課	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
市民参加協力事業（インターン生からの提案により設定）			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICA関西では、途上国での多様な開発ニーズに対応するために、市民の皆様やNGO、自治体、大学等による国際協力活動への参加を支援し、さまざまな形で連携しています。</p> <p>今回インターンシップを募集に当たり、特定の實習テーマを用意しませんが、開発教育や事業広報、NGO連携など、市民参加協力事業に関心を有する方の、幅広い提案をお待ちしています。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月～9月末の1か月			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
特になし			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
實習希望テーマに応じて応相談			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机、イス、PCなどオフィスワークに必要な機材			
<b>【在外<sup>※</sup>】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 円/泊    ■食費： 円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外01
■担当部署：	カンボジア事務所	<b>募集人数</b>	1～2人
■受入先：	カンボジア日本人材開発センター		
<b>テーマ</b>			
カンボジア日本人材開発センター（CJCC）のService & Culture部門（文化交流・広報・マーケティング、顧客対応等を担当する部門）における業務補助			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>「カンボジア日本人材開発センター（Cambodia-Japan Cooperation Center 通称：CJCC）」は、日本政府の無償資金協力により施設が2005年に完成し、カンボジア政府教育青年スポーツ省傘下の組織（王立プノンペン大学の一部）として発足しました。現在、JICAの技術協力により運営能力強化が図られています。CJCCでは、ビジネスコースなど実務人材の育成、キャリア形成に役立つ日本語コース、相互理解促進のための交流を活動の柱としています。また、カンボジア市民に対する情報サービス（図書、視聴覚機材）を通じて「日本」に関する情報の発信を実施しています。</p> <p>CJCCは将来にわたって継続的に両国の人々の交流・相互理解の拠点としての役割を果たしていくことを期待されており、ビジネス分野の実務者、行政官、学生、市民を対象として、開かれた両国の人々の学びと交流の場となることを目指しています。</p> <p>Service &amp; Culture部門は、文化交流行事の企画運営、日本とカンボジアの季節行事の体験クラス、日本国大使館等との共催による文化イベント、日本の教師・学生等のスタディーツアー受入れ、日本関連書籍を備えた図書室の運営、日本への留学希望者に対する留学情報提供、カンボジアに進出した日本企業の要望をうけた会社説明会・商品展示、センター利用者からの要望への対応、CJCCの研修・人材育成機関としてのサービスをより広くカンボジア社会に提供するためのマーケティング活動の実施など、幅広い活動を同部門のスタッフ（カンボジア人）を中心に行っています。</p> <p>本件インターン実習生は、CJCCのService &amp; Culture部門に所属し、同部門のスタッフ等（カンボジア人）とともに、各種のイベントや広報展示の計画、PR、運営・実施、マーケティング活動などを行います。また、事業への参加を通じて、両国文化交流に資する広報素材や資料の充実を図り、さらに効果的な展示方法の改善にも、現場のスタッフとともに働く中で取り組みます。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月～11月頃の1～2ヶ月程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
CJCC内の公用語は英語です。英語による業務上の会話や文書作成が支障なく行えることが必要です。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
CJCCのService & Culture部門の活動に加え、ビジネス研修や日本語研修など各種の行事や研修に主催者側から参加可能です。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務用デスクおよびコピー機などの事務用機器			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：2,500～3,500円/泊    ■食費：1,000円/日    ■通勤費：800円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外02
■担当部署：	ネパール事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	ネパール事務所および各プロジェクト事務所		
<b>テーマ</b>			
ネパール国JICA事業にかかる広報活動支援（①農業・農村開発、②都市開発・地域開発、③教育、④水資源、防災）			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>ネパール国におけるJICA事業について調査、取材を行い、JICA内外において広報活動支援を行って頂きます。応募者は自身が関心を有するプロジェクトの現場を訪問し取材を行いますが、特に以下4分野に関し強い関心を有する学生を募集します。</p> <p>①農業・農村開発 ②都市開発・地域開発 ③教育 ④水資源・防災</p> <p>今回のインターンシップを募集するにあたり、当事務所において広報活動支援というテーマを設定してはおりますが、ネパール国の発展や安定に結びつく協力手法や戦略を研究されたい方の幅広い提案を歓迎します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年12月以降			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730点以上相当の英語力。①農業・農村開発、②都市開発・地域開発、③教育、④水資源・防災のいずれかについて専攻するもの。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境			
<b>【在外ホスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 6,000円/泊    ■食費： 500円/日    ■通勤費： 円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外03
■担当部署：	バングラデシュ事務所	<b>募集人数</b>	1~2人
■受入先：	(BRAC)		
<b>テーマ</b>			
農村信用（農民向けマイクロファイナンス）に関する事業モニタリング及び評価			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>BRACはバングラデシュ最大のNGOであり、その事業は本来業務である社会開発部門、収益業務である社会的企業部門（Social Enterprise）、更にマイクロファイナンスを実施する金融部門に分かれている。BRACの社会開発部門の中の農業プログラムは、作物の品種改良（R&amp;D）とその普及、農村バリューチェーンの構築など、多岐にわたる。その中の、「小作農向農業金融プロジェクト（BCUP）」では、零細農民向けの小額融資を行い、かつ貸付を受けた農民に対し、農業技術等のサポートを実施している。</p> <p>現在、JICAでは、「農業・農村開発プログラム」の中で、農民の生計向上並びに農業バリューチェーンに関する協力プロジェクトの形成を検討しており、BRACのBCUP他との連携も視野に入れている。</p> <p>本インターンは、BCUPの事業実施の実際に関して、情報収集並びに事業の実態に関する分析を行い、JICAとBRACの連携可能性を検討するのに必要な提案を行う。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月～2015年3月上旬までの間で、最低3ヶ月以上。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730点 TOEFL550点（CBT2134点，iBT79点），IELTS6.0以上、英検準1級，国連英検B級以上の英語力を有する者で、かつ農業・農村開発もしくは経済、金融を専攻している者。途上国での勤務や国際協力事業への関与の経験があることが望ましい			
<b>参加（同行）可能な行事・視察等</b>			
JICAプロジェクト形成ミッションによる地方出張への参加など			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
BRAC内及びJICA事務所内に机・椅子（実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと、携帯電話の本体は貸出し可であるが、SIMカードや通話料は本人負担）			
<b>【在外ポスト】現地生活費（参考情報）</b>			
■宿泊費：7,000円／泊    ■食費：1,500円／日    ■通勤費：200円／日 ■外国人登録費：4,000円			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外04
■担当部署：	フィリピン事務所	<b>募集人数</b>	1名
■受入先：	小児呼吸器感染症の病因解析・疫学に基づく予防・制御に関する研究プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
小児呼吸器感染症の病因解析・疫学に基づく予防・制御に関する研究プロジェクトにおける調査関連業務補助			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>フィリピンなどの途上国では、肺炎をはじめとする重症呼吸器感染症が死亡原因の25～33パーセントを占め、世界中で毎年約200万人の小児が肺炎により死亡していると推計されています。しかし、ウイルス感染を含めた肺炎罹患の実態は、未だに解明されていません。2011年から始まったこのプロジェクトでは、フィリピン研究機関との共同研究を通じ、小児肺炎の病因・疾病負担・リスク要因を明らかにし、有効な介入を検討することを目的としています。これにより小児肺炎対策の改善に寄与することが期待されます。</p> <p>今回募集するインターンは、現在プロジェクトサイトで実地中のフィールドでの疫学調査・研究の進め方を学ぶことを目的とし、下記の業務の中から、実習時のプロジェクトの状況とインターンの希望と能力に応じて、実習を割り当てることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンターパート機関との協議への参加</li> <li>2. プロジェクトサイトで調査関連業務への参加</li> <li>3. 専門家補助業務</li> </ol> <p>★参考情報：  <a href="http://www.jica.go.jp/oda/project/1000180/index.html">http://www.jica.go.jp/oda/project/1000180/index.html</a>  <a href="http://www.jica.go.jp/project/philippines/003/outline/">http://www.jica.go.jp/project/philippines/003/outline/</a>  =</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月上旬～2014年10月下旬の2ヵ月～3ヵ月程度（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
英検2級以上、TOEIC640点以上、またはTOEFLiBT61（PBT500点、CBT173）以上、IELTS5.0以上。医学分野を専攻しており、感染症および公衆衛生に関する基礎知識を有している者。			
<b>参加（同行）可能な行事・視察等</b>			
地方調査への参加（ビラン州）			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
事務スペースの提供、電話等の利用、関連情報・資料の提供等。 ※実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと			
<b>【在外ポスト】現地生活費（参考情報）</b>			
■宿泊費： 6500円／泊    ■食費：1000円／日    ■通勤費：500円／日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外05
■担当部署：	ベトナム事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	ハノイ公共交通改善プロジェクト (ハノイ市交通局都市交通管理運営センター内にある JICAプロジェクト事務所)		
<b>テーマ</b>			
バス交通利用促進のための計画づくり・各種パイロット活動実施補助			
<b>インターンシップ内容 (800字程度)</b>			
<p>ベトナム国(以下「ベ」国)の首都ハノイにおいては、都市人口の増加(約6,440千人)、車両の急激な増加(自動車約150万台、バイク約3,000万台)等により、道路混雑が深刻化している。このような混雑問題の解決、健全な都市開発を進めるため、2008年に「ハノイ市2020年に向けた交通計画」にて、5路線の都市鉄道(UMRT: Urban Mass Rapid Transit)建設等の計画を決定した。</p> <p>このような背景の下、ハノイ市においては、喫緊の課題である交通渋滞緩和のため、バス路線の増強を行い、バス自体の整備・強化に対し、他ドナーによる技術協力が行われた。</p> <p>しかしながら、現在、都市交通全体でのバス交通の分担率は10%程度であり、依然としてオートバイや自家用車等の私的交通機関の利用が大半を占め道路混雑の主な要因となっている。また、バス交通のサービス水準も高いとは言えず、利便性や快適性の両面で改善が必要とされている。このため、ハノイ市では、バス交通のサービス向上とともに、バスが走行する道路空間の改善や私的交通の利用規制等も含めた総合的な取り組みを、組織横断的に進めていくことが求められている。</p> <p>本プロジェクトは、ハノイ市における深刻な交通渋滞解消のため、自家用車から公共交通へのモーダルシフトを行うための方策を検討し、ハノイ市交通局への技術移転を中心としたものである。</p> <p>インターンに対しては、開発途上国における交通問題の現状ニーズの把握、課題解決に向けた計画策定手法、技術指導の進め方等を学ぶことを目的とし、下記の中から、プロジェクトの状況とインターンの希望と能力に応じて、実習内容を決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バス路線再編案策定補助(交通需要予測に基づく解析作業)</li> <li>2. バス優先対策パイロット活動への参加</li> <li>3. バス利用促進のための各種啓蒙活動(地区ワークショップ/学生討論会)への参加と作業補助</li> <li>4. その他専門家補助業務</li> </ol> <p>※プロジェクトの進捗状況により実習内容が若干異なることもあり。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月の1か月または8月中旬から9月末の間の1か月			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text" value="プロジェクト活動計画の都合上"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
社会基盤工学・土木計画学・社会学などの分野を専攻し、交通計画や都市計画の基礎知識を有している者。TOEIC730点以上程度の英語力を有する者で、途上国での研究活動などの経験があることが望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
プロジェクトで主催するセミナーへの参加(但し、実際の実習期間中に開催された場合に限る)			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子(実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと、携帯電話の本体は貸出し可であるが、SIMカードや通話料は本人負担)			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<p>■宿泊費：3,500円/泊    ■食費：500~1,000円/日    ■通勤費：500円/日(ホテル~プロジェクトオフィス往復)</p> <p>■その他：(市内~空港間タクシー)：2,000円(片道)</p> <p>■その他：VISA取得費用：1万円程度(事前に取得しておくのが望ましい)</p>			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です(但し、一部規程の経費補助あり)			
<b>備考・留意点</b>			
実習前に東京にてプロジェクトにかかる事前説明可			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外06
■担当部署：	ベトナム事務所	<b>募集人数</b>	2人
■受入先：	ベトナム災害に強い社会づくりプロジェクトフェーズ2		
<b>テーマ</b>			
プロジェクト対象地域の河川における河岸保護施設の効果検証			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>毎年のように大規模な風水害・土砂災害が発生しているベトナム政府の要請により、JICAは2013年8月より当プロジェクトの実施を開始し、現在3人の専門家（チーフアドバイザー・総合洪水管理計画・業務調整）が農業地方開発省で活動している。プロジェクトは特に洪水災害リスクの高い当国中部地方のクアンビン省・ゲアン省・ハティン省を対象にして、総合洪水管理計画の策定・洪水リスク分析能力の強化・構造物/非構造物による洪水対策の強化を目的としている。インターンはチーフアドバイザーの指導の下、ベトナムで実施されている河岸保護のための保護施設/対策の効果を検証し、対象流域に適した河川保護対策を提案するための基礎的調査・検証を行う。プロジェクトが実施する現地調査、ワークショップ等へ同行して補助的業務を行うほか、余裕があれば対象省で実施される災害被害調査、洪水リスク分析等に専門家と現地カウンターパート職員と共に参加することも期待される。</p>			
<b>受入時期・期間：</b>			
8月～11月のうち、3か月以内			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
土木、特に水理学を専門としていること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
期間中実施されるすべてのワークショップ、現地調査、調整会議等。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
オフィススペース、電話・インターネット等の通信環境。PCは持参すること。			
<b>【在外ポス】現地生活費(参考情報) 状況によりこれより高くなる場合があります</b>			
<p>■宿泊費： 3,500円/泊  ■食費：500～1,000円/日    ■通勤費： 500円/日 (ホテル～プロジェクトオフィス往復)  ■その他：(ノイバイ空港～ハノイ市内タクシー)：2,000円(片道)  (Hanoi-クアンビン間フライト)：25,000円(往復)  査証取得費用：1万円程度(事前に取得しておくことが望ましい)</p>			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です(但し、一部規程の経費補助あり)			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外07
■担当部署：	ミャンマー事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	ミャンマー・日本人材開発センター（MJC）		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定（可能であれば、ミャンマー民間セクターと日本民間セクターとのネットワーク構築に資するテーマやアセアン経済統合におけるミャンマーの位置づけに関するテーマを期待します。）			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>MJCは、日本政府およびミャンマー政府並びに両国の経済団体の支援の下、ミャンマービジネス界を担う人材の育成を行うことを目標としています。</p> <p>また、併せて、両国間における経済・人材間のネットワーク構築も、もう一つの目標としています。このネットワークづくりは、我が国の大手企業だけでなく地方の中小企業のミャンマー展開にも役立つものにしていただいています。</p> <p>なお、このセンターは、昨年10月に開始したばかりということから、これから前述の目標を達成するため、新しいビジネスコースを試行的に立ち上げていきたいと思っています。</p> <p>他方、MJCは、2015年度に予定しているアセアン統合における「ミャンマーの実態と課題」、「アセアンにおけるミャンマー産業の位置づけ」などをテーマとして、UMFCCI（ミャンマー商工会議所）およびヤンゴン経済大学との共同研究などを計画しています。</p> <p>ついては、今回のインターンシップ・プログラムにあたっては、両国の経済・経営が共にWin/Winとなる手法や戦略を研究されたい方やアセアンの中のミャンマーの位置づけについて研究されたい方の幅広い提案をお待ちしています。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月～2015年3月末までの間で相談・調整可。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
健康であること。異文化になじめること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望学習テーマにより相談に応じる			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：8,000円/泊    ■食費：800円/日    ■通勤費：500円/日 ■その他：ビザ申請料4,500円/回、ビザ再取得のためのバンコク渡航費 30,000円/回程度			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
入国ビザのミャンマー滞在可能期間は4週間のため、第三国(タイ等)でのビザ再取得が必要となります。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外08
■担当部署：	ラオス事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
ラオス水道セクターの業務・運営管理改善（現状・問題分析及び改善方法の模索、実践）			
<b>インターンシップ内容</b>			
<p>ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト（通称「Project MAWASU」）は、2012年8月に開始され、2017年8月に終了する。プロジェクト1年次は問題分析ステージとして現状把握と長期構想の策定を行った。プロジェクト2年次はツール導入ステージとして計画の確実な実施・モニタリングシステム構築を実施している。インターンは、プロジェクト3年次（事業展開ステージ、データ管理マニュアルの完成・水道事業計画）に各専門家と以下の業務を行う。これにより、インターンは、当該国の水道セクターの現状と課題の整理、現状と課題を踏まえた改善方法の考え方及びJICA技術協力プロジェクトの支援方法などを身につけることができる。</p> <p>（1）中央行政（DHUP:住宅都市開発局）：（1-1）水道ビジョンの策定、（1-2）ラオス水道協会設立の検討、（1-3）官民連携（PPP）の取り組み  （2）中央行政（WASRO:水道規制室）：（2-1）水道事業ガイドラインの策定（改定）及び全国展開  （3）パイロット3水道公社（首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県）：（3-1）データ管理マニュアルの実践、（3-2）長期計画の実施、（3-3）中期財政計画の見直し、（3-4）2015年予算の確定、（3-5）2014年のモニタリング</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月～12月までの約4ヶ月間			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730、TOEFL550点（CBT213点、iBT79点）点程度の英語力。水に重大な関心を持っていること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
月例会議、国際セミナー（首都ビエンチャン、10月予定）、ワークショップ（11月予定）、JCC会議（12月予定）へのオブザーバー参加。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机、その他OA機器は提供可。			
<b>【在外*ト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 3,500円/泊    ■食費：500～1,000 円/日    ■通勤費：300円/日 ■外国人登録費：50円			
※出張等を行う際の移動にはプロジェクトの車両を利用する。			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外09
■担当部署：	ラオス事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	ラオス都市開発管理プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
首都ビエンチャンにおける土地利用計画、用途地域規制、景観規制の作成			
<b>インターンシップ内容</b>			
<p>ラオス都市開発管理プロジェクトは、2013年10月に開始し、3年のプロジェクトである。プロジェクトは、「都市開発に関する首都ビエンチャンの職員の都市開発管理能力が向上する」ことを目的とし、活動を通して主にUrban Area and Outskirtsを対象とした土地利用計画、Inner Zoneを対象とした詳細土地利用計画/ゾーニングコード、及びHistoric Areaを対象とした景観規定を作成するものである。</p> <p>インターンは上記活動の内、特に、詳細土地利用計画/ゾーニングコード、及び景観規制構築について、プロジェクト短期専門家と作業を行うことを想定する。またインターンシップを通して、首都ビエンチャンの現況を理解するとともに、用途地域及び景観規制のあり方等を学ぶことを目的とする。具体的には以下の内容を想定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 詳細土地利用計画/ゾーニングコード：既存の制度把握、用途地域の線引き・規制の検討</li> <li>・ 景観規制：歴史的地区の建物状況把握、既存の規制把握、新規規制内容検討</li> </ul>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月中旬～9月中旬の約1ヶ月間			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">数週間程度の変更は調整可能。ただし対応できる要員に限られるリスクはある。</span>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC 600点。都市計画及び建築分野の知識。GISが使える人が望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
土地利用・建物現況調査等			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机、OA機器等（コピー機、プリンター）は共有使用可。 （PCはインターンが持参を想定）			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<b>■宿泊費：</b> 3,500円/泊 <b>■食費：</b> 500～1,000円/日 <b>■通勤費：</b> 400円/日 <b>■その他：</b>			
※出張等を行う際の移動にはプロジェクトの車両を利用する。 ※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外10
■担当部署：	ラオス事務所	<b>募集人数</b>	3人まで
■受入先：	ビエンチャンバス公社運営能力改善プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
ビエンチャン市の「バス交通でまちづくり」、バス公共交通の政策、計画、運営			
<b>インターンシップ内容</b>			
<p>ビエンチャンバス公社運営能力改善プロジェクトは、2012年1月に開始され、2014年12月に終了します。プロジェクトの目標は、「バス公社の都市バスサービスが改善される」で、成果は、「バス公社の経営が改善される」、「ビエンチャン市において市民の要望を反映した公社バスサービス改善策が実施される」、「公共バス交通にとって融資な公共交通政策と計画が策定される」です。この成果を達成するために、財務状況の改善、カウンターパートの能力向上、車両運営・管理機材と施設を改善、公共交通の社会実験、交通委員会、バスインタビュー調査、バス路線の見直し等バス交通改善策の作成と実施、バス料金構造の見直し、IT料金カード導入、中期計画策定を行っています。</p> <p>特に、昨年Bus Rapid Transit (BRT)社会実験(1)としてバス優先レーンの導入し、本年本格導入のために、交通調査を実施、調査・解析の技術移転を、「交通工学クラス」を設け、バス公社、交通警察、公共事業運輸省、市公共交通運輸局、ラオス大学学生等を対象に、ラオス大学工学部交通学科と協同で実施しています。別途、学生定期券導入のための社会実験を予定しており、学生調査やシステム構築を予定しています。また、ADBはじめ他ドナーと協調して、「交通とまちづくり」を進めています。</p> <p>今回のインターンシップ募集に際し、首都ビエンチャン市の「バス交通とまちづくり」をテーマとし、応募者からプロジェクト範囲内における実習内容の提案を歓迎いたします。専門家は多様ですので、都市工学、交通工学にくわえ、都市社会学、公社財政学、公共交通経済学等を国際協力の視点から学ぶことができます。また、ラオス大学学生との研究交流や事業参加もできます。参加希望者は、工学部に限りません。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月初旬～9月末までの約3ヶ月間（内1ヶ月でもよい）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px; height: 15px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730、TOEFL550点(CBT2134点、iBT79点)点程度の英語力。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験への参加（BRT・学生定期等）</li> <li>・各種セミナー</li> </ul>			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机、その他OA機器は提供可。 各自必要なコンピュータ自己負担			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<b>■宿泊費：</b> 3,000円/泊 <b>■食費：</b> 500～1,000円/日 <b>■通勤費：</b> 300円/日 <b>■外国人登録費：</b> 50円			
※出張等を行う際の移動にはプロジェクトの車両を利用する。			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外11
■担当部署：	モンゴル事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	JICAモンゴル事務所/UN-Habitat/アジア財団		
<b>テーマ</b>			
ゲル地区における生活環境改善を目的としたJICA/UN-Habitat/アジア財団による取組を通じた住民・コミュニティの意識・行動変容にかかる調査			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>鉱物資源が牽引する形で近年急激な経済成長が続いているモンゴルでは、経済成長の恩恵を受けるために、農村から首都ウランバートル市（以下「UB」）への人口流入が続いており、毎年1万世帯の増加が見られる。UBへ流入した人口の多くがゲル地区と呼ばれる、上下水道、暖房システム等のインフラの整備されていない地区に居住しており、都市環境の悪化、火災や地震等の災害に対する脆弱性の増大、就学前教育施設の不足や初中等教育における教室の過密化等の諸問題を引き起こしている。</p> <p>これらの各種都市問題に対して、近年、コミュニティの形成および機能強化を通じた問題解決アプローチへの取り組みが進展している。モンゴルは元来、遊牧民を中心とした国であり、家族を核とした単位で生活を支え合ってきた歴史があり、地区や町レベルでのコミュニティという概念が希薄である。ゲル地域においても、状況は同様であるが、他方でドナーの協力等、触媒が入ると、コミュニティが形成され、コミュニティ主導による取り組みが効果的に進展するという実例が近年いくつも観測されている。かかる状況を踏まえ、UB市においては、コミュニティ参加によるゲル地域再開発を、メインストリーム化しようとしており、そのために新たな行政組織としてゲル地区再開発部局を一昨年新設した。</p> <p>このような背景のもと、本インターンシップでは、ゲル地区における生活環境改善を目的としたJICA及び、UN-Habitat、アジア財団の3つの組織による取組を主な切り口として、ゲル地域の住民・コミュニティの意識・行動変容に関する調査を行い、今後のゲル地区における生活環境改善事業に資することを目的とする。</p> <p>上記を踏まえた具体的なインターンシップの実習計画の概要は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>JICAのウランバートル都市機能強化にかかる各種プロジェクトの理解、プロジェクトの視察、関係者との意見交換を通じたゲル地区住民の意識・行動変容に関する状況把握。</li> <li>コミュニティ開発無償「ゲル地区生活環境改善計画（UNHABITATとの連携無償）」において、供与した施設の利用状況及びプロジェクト終了後のコミュニティによる運営維持管理の状況確認、同プロジェクトを通じて形成された住民組織の運営状況の確認を通じたゲル地区住民の意識・行動変容に関する状況把握。調査に際しては、一定期間の執務スペース提供を含め、UNHABITATの協力を得ることが可能。</li> <li>アジア財団では「Supporting the Development of 'Model Khoroos' for Solid Waste Management」として、ゲル地区に特化した固形廃棄物問題への取り組みを進めているところ、アジア財団と連携した、同事業のモニタリング等を通じた対象住民の意識・行動変容に関する状況把握。調査に際しては、一定期間の執務スペース提供を含め、アジア財団の協力を得ることが可能。なお、JICAでは過去UBの廃棄物問題に取り組んできたことを背景として、青年海外協力隊事業等を通じて同プロジェクトとの連携を進めている。</li> </ol>			
<p>(1) <a href="http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/hoshin/pdfs/mongolia.pdf">http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/hoshin/pdfs/mongolia.pdf</a>（対モンゴル国別援助方針）</p> <p>(2) <a href="http://www.jica.go.jp/oda/project/0900494/">http://www.jica.go.jp/oda/project/0900494/</a>（都市開発実施能力向上プロジェクト）</p> <p>(3) <a href="http://www.fukuoka.unhabitat.org/projects/mongolia/detail102_en.html">http://www.fukuoka.unhabitat.org/projects/mongolia/detail102_en.html</a>（UN-Habitat Homepage: Community-Led Ger Area Upgrading in Ulaanbaatar City）</p> <p>(4) <a href="http://asiafoundation.org/publications/pdf/1190">http://asiafoundation.org/publications/pdf/1190</a>（アジア財団ウェブサイト）</p> <p>(5) <a href="http://asiafoundation.org/in-asia/2013/01/16/ulaanbaatars-ger-residents-may-see-improvements-under-new-leadership/">http://asiafoundation.org/in-asia/2013/01/16/ulaanbaatars-ger-residents-may-see-improvements-under-new-leadership/</a>（アジア財団ウェブサイト）</p> <p>(6) <a href="http://asiafoundation.org/in-asia/2014/01/22/asia-foundation-launches-community-mapping-website-in-mongolia/">http://asiafoundation.org/in-asia/2014/01/22/asia-foundation-launches-community-mapping-website-in-mongolia/</a>（アジア財団ウェブサイト）</p> <p>(7) <a href="http://asiafoundation.org/news/2013/10/the-asia-foundation-and-the-ulaanbaatar-city-municipality-present-results-of-joint-community-mapping-initiative-in-ger-areas/">http://asiafoundation.org/news/2013/10/the-asia-foundation-and-the-ulaanbaatar-city-municipality-present-results-of-joint-community-mapping-initiative-in-ger-areas/</a>（アジア財団ウェブサイト）</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2013年8月中旬-2013年12月の間で1ヶ月-2ヶ月程度（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲で、コミュニティ開発、都市開発に関心を持ち、研究テーマとして取り組んでいること。</li> <li>・ドナーからの聞き取り調査や、UN-Habitat プロジェクトとの連携を図った活動・調査を予定していることから、英語による十分なコミュニケーション能力が必要。TOEIC730点 TOEFL550点（GBT2134点、iBT79点）、IELTS6.0以上、英検準1級、国連英検B級以上の英語力を必須とする。</li> <li>・途上国での勤務や国際協力事業への関与の経験があることが望ましい。</li> <li>・モンゴル語の会話能力を有していれば、望ましい。</li> </ul>			

**参加(同行)可能な行事・視察等**

UBゲル地域の視察・調査については、UNHABITAT、アジア財団関係者の帯同が可能。また、必要に応じてモンゴル語通訳の手配が可能。関連する青年海外協力隊からの一定の協力を得ることも可能である。

**提供可能な執務環境等**

JICA事務所、UNHABITAT、アジア財団における事務スペースの提供、電話等の利用、関連情報・資料の提供等。

※実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと

※携帯電話の本体は貸出し可であるが、SIMカードや通話料は本人負担

※モンゴル語が不可欠な活動については、通訳を配置することも可能。

**【在外ホスト】現地生活費(参考情報)**

■宿泊費： 4,000 円/泊 ■食費：2,000 円/日 ■通勤費： 円/日

■その他：外国人登録費：1,100 円

※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）

**備考・留意点**

特に、UNHABITAT、アジア財団の調査については、インターンを通じて相互に情報が流れることのないように、守秘義務に留意すること。

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外12
■担当部署：	パレスチナ事務所	<b>募集人数</b>	若干名
■受入先：	希望実習テーマにより設定		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICAは、将来のパレスチナの国家建設・イスラエルとの平和共存の実現に向けて、パレスチナの経済・社会が自立するよう、(1) 民生の安定・向上（上下水、保健、教育）、(2) 行財政能力の強化（地方行政）、(3) 持続的な経済成長の促進（産業、農業、観光）の分野を中心にパレスチナの経済・社会開発に取り組んでいます。特に、日本政府の推進する「平和と繁栄の回廊」構想の具現化に向けて、ジェリコ農産加工団地の設立に注力しています。</p> <p>今回のインターンシップを募集するにあたり、当事務所において特定の実習テーマを用意いたしません。パレスチナ経済・社会の発展や安定に結びつく協力に関し、具体的なテーマや特定セクターの研究等を希望される方の提案を歓迎いたします。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月～2015年2月までの間で1～3ヵ月間。ただし、年末年始を除く。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<p>イスラエル占領下におけるパレスチナ自治区の状況は特殊かつ複雑であり、実習を効率的なものとするためには一定の基礎知識を持つ方が望まれます。</p> <p>ただし、特定セクターに絞って研究を行う方は必ずしもその限りではありません。特定セクター研究については、上述の3つの分野いずれかに関係するものが望まれます。また、パレスチナの自然条件は日本と大きく異なりますが、農業の協力も行っており、乾燥地農業分野等の可能な限り具体的な提案を歓迎します。</p>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
実習期間中、当事務所内執務室（テルアビブ、ラマッラ、ジェリコ）を提供可能。実習で使用するパソコン、カメラ等はインターン自身が持ち込むこと。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<b>■宿泊費：</b> 10,000円/泊 <b>■食費：</b> 3,000円/日 <b>■通勤費：</b> 円/日 <b>■その他：</b>			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外13
■担当部署：	ヨルダン事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	実習テーマにより決定		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>長引くシリアの内戦により周辺各国には230万人を超える難民が流出しており、ヨルダンにも約60万人が流入しています。シリア難民は、難民キャンプで生活する者と、難民キャンプ外で生活する者がいます。これら難民は各国の政治・経済社会に大きな影響を及ぼしており、地域の大きな不安定要因となっています。</p> <p>難民キャンプに居住する難民に対する支援ニーズに加えて、難民キャンプ外で生活する難民と、そうした難民を受入れているホスト・コミュニティに対する支援ニーズも高いにもかかわらず、実態の把握が難しいこともあり十分な支援が行われていません。</p> <p>JICAは、ヨルダンを含む中東地域の安定を確保するため、シリア難民及びホスト・コミュニティに対する支援を積極的に進めており、①難民キャンプの洪水被害に対する緊急援助物資の供与、②難民キャンプ内外に子供や障害者等支援のボランティアを派遣、③学校や医療施設への機材供与、④実施中円借款による医療施設の拡充等を実施するとともに、⑤財政支援円借款の供与、⑥水衛生分野の緊急開発調査の実施と無償資金協力、⑦保健分野技術協力実施の準備に取り組んでいます。</p> <p>今回のインターンシップを募集するにあたり、当事務所において特定の实習テーマは用意いたしません。シリア難民及びホスト・コミュニティに対する今後のJICA事業に活かせるような具体的な提案を歓迎いたします。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月上旬から10月下旬までの間で1ヶ月から3ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
1. 業務遂行可能な英語力（TOEIC730点以上、TOEFL550点（GBT213点、IBT79点）、IELTS6.0以上）、英検準1級、国連英検B級以上）を有する者 2. 関連分野を専攻している者			
<b>参加（同行）可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子（実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと、携帯電話の本体は貸出し可であるが、SIMカードや通話料は本人負担）			
<b>【在外*】現地生活費（参考情報）</b>			
■宿泊費： 8000円／泊    ■食費： 1500円／日    ■通勤費： 300円／日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
シリア難民キャンプ内は治安状況が急激に悪化する可能性があり、シリア難民キャンプ内で活動・調査するためには必要な安全対策を講じる必要があることから、今回の実習はシリア難民キャンプは対象外とします。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外14
■担当部署：	ヨルダン事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	サルト市における持続可能な観光開発プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
ヨルダンにおける観光セクターの課題と展望～サルト市におけるコミュニティ・ベースド・ツーリズムを事例にして～			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>天然資源が乏しいヨルダン国において、豊富な文化遺産や死海等の自然環境を利用した観光産業は貿易外収支の20%を占める主要産業であり、その振興はヨルダンの経済の安定、および発展にかかる重要な政策課題である。しかしながら、ヨルダンの観光地においては、豊富な観光資源を十分に活用するための基盤整備が遅れており、その整備が我が国のヨルダンに対する協力の柱の一つとなっている。</p> <p>サルト市は19世紀後半から20世紀初めに通商で栄えた街であり、当時建てられた黄色の石造りの建造物と固有の文化が今も息づく歴史都市である。しかし近年は建造物の荒廃が進み、固有の文化も風化しつつあるなど、観光資源である都市遺産は危機的な状況に置かれている。我が国は、サルト市において歴史博物館を建設したほか、現在はこれら観光資源を活用し、地域住民に裨益する観光開発の推進するための技術協力プロジェクトも実施している。</p> <p>今回募集するインターンは、以下を通じヨルダンにおける観光セクターの課題及び展望について調査・分析し、提言をまとめることを主な目的として実習を行う。</p> <p>① 観光産業の現状を調査・分析する。  ② サルト市においてエコミュージアム・コンセプトによる観光開発の仕組みを学ぶ。  ③ サルト・フェスティバルの企画・準備を補佐することによって地域の観光リソースの活用について学ぶ。  ④ 文化資源を保全しつつ住民に裨益する観光商品を提案する。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月上旬から10月下旬までの間で1ヶ月から3ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可		理由： <b>最終的には、プロジェクトの進捗及び専門家の派遣スケジュールによって調整が必要。</b>	
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
1. 業務遂行可能な英語力（TOEIC730点以上、TOEFL550点（GBT213点、IBT79点）、IELTS6.0以上）、英検準1級、国連英検B級以上）を有する者 2. 関連分野を専攻している者			
<b>参加（同行）可能な行事・視察等</b>			
10月にサルト・フェスティバルを開催予定。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子（実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと、携帯電話の本体は貸出し可であるが、SIMカードや通話料は本人負担）			
<b>【在外ポスト】現地生活費（参考情報）</b>			
■宿泊費： 8000円／泊    ■食費： 1500円／日    ■通勤費： 300円／日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外15
■担当部署：	ウガンダ事務所	<b>募集人数</b>	2人まで
■受入先：	コメ振興プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
稲作振興			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>コメ振興プロジェクトでは、稲作に関して、育種、栽培、病虫害、水管理、機械化、ポストハーベストまで研究機関としてすべてをカバーしています。また、普及機関と連携して農家向けの研修も実施しています。また、施設として、ガラス屋根のスクリーンハウスや灌漑施設もあり、赤道直下で年間の温度も安定しているため年中稲の生産が可能です。したがって、すべての栽培ステージの稲を見ることができ、短期間でも稲に関することを学ぶには最高の環境にあります。</p> <p>7月中旬から2週間、エチオピアとザンビアの研究者向けの研修を実施する機会がありますので、その英語の研修に参加することが可能です。また8月には周辺国の協力隊員とカウンターパート向けの研修を予定しているため、インターン時期が合えばその研修に参加することもできます。</p> <p>農家研修は終了している時期となりますが、研修終了後の農家の様子やプロジェクトと連携して村落に入って活動する協力隊員の活動現場を見る機会も作ることもできます。現在、研修終了農家のインパクト調査を進めていますし、6月には中間レビューが行われますので、農家における技術普及状況や成果の発現状況など、プロジェクトを評価の観点から見ることもできます。</p> <p>このプロジェクトには6名の長期専門家がいます。8月頃には大学教員らも短期専門家として派遣が予定されているため、分野によっては、より専門性の高い指導を受けられることがあります。稲研究に関心のある人は、途上国における研究現場を見るよい機会です。</p> <p>インターン終了時には「ネリカ検定準2級」が授与されます。</p> <p>いろんなことに対応できますので皆さんのチャレンジングなプロポーサルを期待します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7・8月頃・約1ヶ月			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<p>大学あるいは大学院で農学系あるいは農村開発系を専攻していること。  英語で行われる研修に参加するため、英語のレベルは資格要件を必ず満たしていること。</p>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
<p>7月14日から25日までのエチオピアとザンビアの研究者向けの稲作研修(英語)に合同で参加。  8月中旬に開催予定の協力隊およびカウンターパート向けの稲作研修(英語)に合同で参加。</p>			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務デスクとある程度の実験器具および計測機器等、執務室におけるインターネット環境。			
<b>【在外ホスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<p>■宿泊費： 円/泊    ■食費： 約200円/日(平日の昼食のみ)    ■通勤費： 0円/日  ■その他：宿泊費は研究所のドミトリーを無料で使用できる見込みです。</p>			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
首都カンパラから約30kmのところにあります。近くに金融機関はありません。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外16
■担当部署：	ガーナ事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	天水稲作持続的農業開発プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
「天水稲作持続的農業開発プロジェクト」補助及びインターン生からの提案による稲作関連の調査・研究			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICAはガーナにおいて、2009年7月から5年間の計画で「天水稲作持続的農業開発プロジェクト」を実施中です。ガーナにおいて、コメはメイズ（トウモロコシ）に次ぐ第二の生産量がある穀物であり、その消費量は近年、都市部を中心として大きく増加しています。また、コメは換金性が高いことから、農家の現金収入源としても重要な位置づけにあるといえます。</p> <p>ガーナで生産されているコメの約80%が低湿地で半集約的に生産されており、農家の営農形態が不安定であることから、本プロジェクトにおいては、小規模農家を対象とした天水稲作の改良技術パッケージの開発、営農システムの改善策の提案、稲作の普及方法の確立についての取組を通じ、プロジェクト対象地域（アシャンティ州、ノーザン州）における「持続的天水稲作開発モデル」の普及促進を目指しています。現在プロジェクトでは5名の専門家が活動しており、ガーナ国食糧農業省のスタッフをカウンターパートとして活動を実施中です。</p> <p>今回募集するインターンは、プロジェクトの取組手法を学ぶことを目的として以下を実施し、ガーナにおける稲作開発や本プロジェクトの今後の発展に資する提案を行なっていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 天水稲作栽培技術、営農支援、普及についてのプロジェクト活動補助</li> <li>2. インターンの提案による稲作関連の特定のテーマ・課題についての調査・研究</li> </ol> <p>&lt;プロジェクト関連サイト&gt;  <a href="http://www.jica.go.jp/oda/project/0800821/index.html">http://www.jica.go.jp/oda/project/0800821/index.html</a></p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月中旬～2014年10月中旬までの期間で1～2ヶ月間。			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可      理由： <input type="text" value="プロジェクトの活動計画、上記以外の期間の受入は困難。"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC640点、TOEFL500点(CBT173点、iBT61点)、IELTS6.0以上、英検2級、国連英検B級以上の英語力を有する者で、かつ「農業」「農村開発」に関連する分野を専攻しているもの。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
プロジェクトが実施する研修への参加（アシャンティ州、ノーザン州）			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
実習期間中、プロジェクトオフィス内執務室を提供可能。実習で使用するパソコン、デジタルカメラ等はインターン自身が持ち込むこと。また、携帯電話は貸出可であるが、通話料は本人負担。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 5,000円/泊    ■食費： 1,000円/日    ■通勤費： 400円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外17
■担当部署：	ケニア事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
BOPビジネス連携促進			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICAは途上国の貧困層をターゲットに、優れた技術・製品・サービス等を展開したい日本企業に対し、ビジネスモデルの策定や事業計画作成のための現地調査を支援し、日本企業のBOPビジネス支援とビジネスを通じた貧困削減に取り組んでいます。事業領域を途上国の貧困層へ拡大し、新たなマーケットを獲得することで収益機会の確保につながることを期待される一方、ビジネスにより貧困層のかかえる社会問題の解決への貢献も期待されます。このような背景のもとケニアでは現在、以下5件の協力準備調査（BOPビジネス連携促進）が採択されています。</p> <p>1 バッテリー再生利用による包括的電化推進事業  2 日本の伝統的発酵技術を活用した栄養食品事業  3 ソルガムを利用した低コスト保存食現地製造販売自立化支援事業 4 日本発の電力制御技術「デジタルグリッド」を活用した現地BOP層との連携による地方電化及び新産業創出事業  5 小規模農家および女性のための余剰農作物を利用した高付加価値スキンケア商品事業 BOPという新市場を開拓するには、これまでのアプローチでは限界があると各方面から言われており、確立した手法があるわけではありません。</p> <p>今回のインターン募集にあたり当事務所では、現場でBOP事業の準備段階を側面で支援しながら、BOPビジネスモデル構築に関心があり、また有効な支援手法を発掘・研究したい方を幅広く歓迎します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2015年3月末の間で1～3カ月間程度（ただし2014年12月下旬～2015年1月上旬を除く）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
マーケティングに関する基礎知識を有していることが望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
各案件の進捗により相談に応じます。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
実習期間中、当事務所内執務室を提供可能。実習で使用するパソコン、デジタルカメラ等はインターン自身が持ち込むこと。			
<b>【在外*ト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：5,000円/泊    ■食費：1,000円/日    ■通勤費：1,000円/日 ■その他：携帯電話 通信費：1,000円～/月			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外18
■担当部署：	ケニア事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
JICA事業広報支援業務			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>我が国はケニアに対し、同国が独立した1963年からこれまで50年間にわたり多くの事業を行っており、またTICADVも踏まえて今後も事業量が維持される基調にあります。その反面、欧米ドナーや国連と比較し、相対的に日本またはJICAの支援についてケニア国内における認知度が高くありません。また、アフリカにおける中国等新興国のプレゼンスも高まる中、我が国国際協力の比較優位をどのように訴えていくかということも重要な課題となっています。他方、日本国民に対してもケニアでのJICA事業の情報についてより一層積極的に発信していく必要があります。加えて、2014年は日本の国際協力60周年にあたることから、当事務所はケニア国内における記念イベントの実施や記念誌等の作成を通じ、JICA事業の広報を促進していく計画です。</p> <p>今回募集するインターンは、ケニア国内・日本国内それぞれに対するJICA事業広報の戦略検討と具体的な発信を進めるために必要な業務を、当事務所広報担当者の助言のもと実施することを想定しています。</p> <p>加えて、受入期間中に特定テーマに関する調査業務を希望する場合は、具体的な調査内容は学生の提案を受け付け、その内容、検討熟度を踏まえた書類選考及び面接選考や、その後のやりとりを通じ、当事務所及び応募学生とで双方合意した内容について、調査業務を行う形式を想定しています。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2015年3月末の間で1～3カ月間程度（ただし2014年12月下旬～2015年1月上旬を除く）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
ODA/JICAの事業および広報業務に関心があり、関連する情報の収集・整理・発信に機動的に対応できること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
各種JICA事業の活動現場を取材するための国内出張、等。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
実習期間中、当事務所内執務室を提供可能。実習で使用するパソコン、デジタルカメラ等はインターン自身が持ち込むこと。			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：5,000円/泊    ■食費：1,000円/日    ■通勤費：1,000円/日 ■その他：携帯電話 通信費：1,000円～/月			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外19
■担当部署：	ケニア事務所	<b>募集人数</b>	若干名
■受入先：	再生可能エネルギーによる地方電化推進のための人材育成プロジェクト (BRIGHTプロジェクト)		
<b>テーマ</b>			
①再生可能エネルギー技術適用事例研究、②再生可能エネルギー適正技術改良研究 (詳細な実習テーマはインターン生からの提案により設定)			
<b>インターンシップ内容 (800字程度)</b>			
<p>現在、JICAがジョモ・ケニヤッタ農工大学 (JKUAT) と協働で実施中のBRIGHTプロジェクトでは、再生可能エネルギー (太陽光、風力、バイオマス、水力) を利用した地方電化の促進のための人材育成を行っています。具体的には、(1)ケニアで必要とされる適正技術の研究開発、(2)大学での教育の改善、(3)外部人材研修のビジネスモデルの構築、(4)産官学の関係者の連携強化を目標に活動を展開しています。中でも、無電化のまま取り残されている人々へ信頼性が高く、安価で、維持管理が容易な発電システムを提供するために、必要とされる技術の開発・改良、有志の起業家支援、産業界の人材育成は、重要な視点です。</p> <p>今回のインターンシップの募集においては、当プロジェクトの視点・活動と関連し、下記の2分野をテーマとして研究や技術開発を志す方の提案を歓迎します。</p> <p>① 当プロジェクトでは、2014年度に当該分野のケニアでの適正技術開発・改良の現状を把握し、優良事例の発掘とともに、JKUATとしてどのような支援が有効かを整理、分析することを計画しています。事例の中には独力で小型揚水風車や風力発電機を製造・販売している起業家等も存在していることから、このような中から1～2例を事例として、詳細聴き取りや分析を行い、当該分野で起業する際、あるいは、技術適用する際の具体的な課題を整理する研究成果を期待します。</p> <p>② 再生可能エネルギーによる発電システムの技術開発・改良の研究の一環として、JKUATの研究者や在野の技術者、利用者との議論や現場視察を通じて、適正技術のアイデアや現実的かつ有効な技術改良の研究成果を期待します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月上旬～2014年12月中旬の間で1～3カ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
インターンが提案する具体的なテーマ、手法を実施するために必要な基本的知識と技術を有すること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
実習提案あるいは研究進捗により相談に応じます。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
実習期間中、プロジェクト事務所内執務スペースを提供可能。実習に必要なパソコン、デジタルカメラ、機材等はインターン自身が持ち込むこと。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：4,000円/泊    ■食費：1,000円/日    ■通勤費：0円/日 ■その他：携帯電話 通信費：1,000円～/月			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です (但し、一部規程の経費補助あり)			
<b>備考・留意点</b>			
プロジェクト事務所のあるJKUATのキャンパスはナイロビ市北東部に隣接するキアンブ郡ジュジャに位置しており、ナイロビ市内からの通勤が困難であることから、実習期間中はJKUATのキャンパスに隣接する宿舎の利用を想定しています。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>実習番号</b>	26-在外20
■担当部署：	ザンビア事務所	<b>募集人数</b>	1~2 人
■受入先：	授業実践能力強化(STEPS)プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
地方の小中学校の授業及び授業研究の継続的な観察と結果のデータ整理			
<b>インターンシップ内容(800字程度)</b>			
<p>ザンビア教育省は教育の質と効果は教員の質に大きく左右されると考え、2000年から校内研修を制度化したが、具体的な研修内容が明確ではなかったため、この制度はほぼ形骸化していた。これに対しJICAは、授業研究を校内研修の具体的活動として導入することを目指し、2005年から「SMASTE理科研究授業支援プロジェクト」を実施し、中央州を対象に授業研究を用いて理科授業の改善に取り組んだ。同フェーズ2(2008-2011)では、対象州をコッパーベルト州・北西部州を加えた3州に拡大した。フェーズ1、フェーズ2を通じた成果を基に、本プロジェクトは、ザンビア全国10州を対象に、既存の校内研修制度への授業研究の導入により、教員の授業実践能力向上を図り、理数科授業での生徒の学習方法改善と生徒の学力向上に寄与することを目的としている。ここで、教育省本省においてプロジェクトの全体的な運営を担っている専門家やカウンターパートは、特定の学校やゾーンの授業研究を一定期間継続して観察することが難しいことから、2013年度には、JICAインターンによって、中央州、コッパーベルト州及び北西部州の3州において、学校現場にて実施されている教員の授業および授業研究の実態を調査(プロジェクト指定のモニタリングフォーマットを用いた調査)を実施した。</p> <p>今回募集するインターンは、上述の2013年度で調査を実施した3州以外の7州を主な対象とし、下記の業務の中から、実習時のプロジェクトの状況とインターンの希望と能力に応じて、実習を割り当てることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地方の特定の地域や学校における授業及び授業研究の継続的な観察・調査</li> <li>2. 1.で得られた結果やデータの整理</li> <li>3. 調査を通じ得られた現場レベルの成果と課題のプロジェクト及び教育省関係者との共有</li> <li>4. その他専門家補助業務</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2015年1月~3月(2カ月程度)			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可 理由： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ザンビアの学校における学期及び試験期間を考慮し、この時期以外は活動が困難</span>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730点 TOEFL550点 (CBT234点, iBT79点), IELTS6.0以上、英検準1級、国連英検B級以上の英語力を有する者で、教育開発分野を専攻しており、かつ途上国の基礎教育学校の授業や授業研究に関心がある者(理数科に限らない)。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
一定期間(2ヶ月程度)の特定地域の学校やエリアにおける授業及び授業研究の観察機会			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子(実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと、携帯電話の本体は貸出し可であるが、SIMカード購入や通話料は本人負担)			
<b>【在外ホスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：4,000-6,000円/泊 ■食費：500-3,000円/日 ■通勤費：500-1,000円/日 ■その他：(3Gインターネット・電話)：3,000~6,000円/月			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です(但し、一部規程の経費補助あり)			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外21
■担当部署：	スーダン事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	水供給人材育成プロジェクト・フェーズ2		
<b>テーマ</b>			
給水人材育成事業のインパクト調査、給水・衛生現場における事業補佐			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>現在当国で実施中の「水供給人材育成プロジェクト・フェーズ2」では、スーダンの給水人材が適切に育成されるために、飲料水衛生局及び全国州水公社における人材育成事業の計画・実施・モニタリング体制の構築を目指した技術協力を進めている。同プロジェクトには、9名の日本人専門家が活動しており、ハルツーム州とパイロット州である白ナイル州及びセンナール州において、給水事業の技術向上及び組織管理や水料金徴収といったハード及びソフト両面をカバーする研修実施・モニタリングにかかる技術移転を前述スーダン人カウンターパートに対して実施している。</p> <p>本インターンにおいては、同専門家チームの指導の下、同プロジェクトのフェーズ1（2008-2011）及びフェーズ2（2011-2015）を通じて研修したスーダン人関係者に対するインパクト調査を実施し、人材育成プロジェクトの効果等を調べる。また、パイロット州においては、給水施設の修復を通じた衛生研修の実施を開始するところ、村落給水現場での調査、研修実施、水公社及び村落住民等との連絡調整業務の補佐を行なう。</p> <p>また、プログラム・プロジェクト管理にかかる調整業務に関しては、JICAスーダン事務所にて実務実習を行なう。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年11月中旬～2015年3月中旬までの間で4ヵ月間程度（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可      理由： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">専門家のスーダン入りが10月中旬なので、受入準備が整う11月に開始希望。</span>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
途上国における給水・衛生問題に対するある程度の知識を有する学生が望ましい。当国での滞在に耐えうる気力と体力の持ち主であること。スーダンの文化とアラビア語に関心があり、積極的に学ぶ意欲のある人。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
全国（特にパイロット州）の水公社研修センターへの専門家による調査・事業モニタリングへの同行等。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
研修センター内の事務所スペース（専門家と共用）、机、椅子。PCは自身で持参。 ※携帯電話の本体は貸し出し可能であるが、SIMカードや通話料は本人負担。			
<b>【在外ホスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<b>■宿泊費：</b> 4,000円／泊（月毎の賃貸物件の相場はUSD500～） <b>■食費：</b> 2,000円／日 <b>■通勤費：</b> 600円／日 <b>■その他：</b> 外国人登録料5,000円、USBインターネットデバイス4,000円、インターネット接続料2000円～／月			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
※入国前にスーダンビザの取得要。取得にあたっては、入国予定の1ヶ月以上前にスーダン事務所に相談すること。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外22
■担当部署：	スーダン事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
スーダンにおける政府開発援助（ODA）事業の広報			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>国際協力60周年に関連した広報展開、「在外事務所における積極的な広報の展開と国内外における理解・支持の拡大」が、今年度の当機構の広報目標の一つとして掲げられており、当事務所においても事務所のパンフレット製作、またソーシャルメディアを活用した広報展開に関する提案等、多方面からアプローチし国内、国外ともにJICAスーダンの認知度を更に高める働きかけを行う予定である。また、途上国での事業展開を効果的に進めるため各プロジェクトに関するニュースレターの作成・配布やウェブサイトでの紹介等ステークホルダーを巻き込んだ地道な広報活動を行う計画としている。</p> <p>今回募集するインターンは、スーダンにおけるわが国の政府開発援助（ODA）事業の広報業務実習をその目的とし、下記の業務の中から、実習時の状況とインターンの希望と能力に応じて、実習を割り当てることとする。上記に限らずインターン生による提案も歓迎する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報資料・ツールの開発・作成</li> <li>2. 広報イベントの企画・実施</li> <li>3. マスメディア他関係機関との関係構築</li> <li>4. 新聞記事のクリッピングを含む報道情報収集、整理</li> <li>5. 広報にかかる報告書の作成</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月～2015年3月中旬までの間で4ヶ月間程度（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
何事も自ら学び、提案し、活動する積極性と当地での滞在に耐えうる気力と体力の持ち主であること。また、スーダンの文化、アラビア語に関心があり、積極的に学ぶ意欲がある者。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
技術協カプロジェクトが実施されているセナール州、白ナイル州、北部州、カッサラ州などで行われるプロジェクト行事等に事務所員、専門家とともに訪問し、広報業務実習を行う。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、机、椅子、パソコン、カメラ等 ※携帯電話の本体は貸し出し可能であるが、SIMカードや通話料は本人負担。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<p>■宿泊費：4,000円/泊（月毎の賃貸物件の相場はUSD500～）    ■食費：2,000円/日    ■通勤費：600円/日  ■その他：外国人登録料5,000円、USBインターネットデバイス4,000円、インターネット接続料2000円～/月</p>			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
※入国前にスーダンビザの取得要。取得にあたっては、入国予定の1ヶ月以上前にスーダン事務所に相談すること			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外23
■担当部署：	スーダン事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	希望実習テーマにより設定		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定（ビジネス関連）			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>南スーダンの分離独立後、石油収入の約4分の3を失ったスーダンでは、石油に変わる収入源、新たなビジネスが求められています。JICAでは貿易省に貿易投資促進アドバイザーを派遣してスーダンの貿易能力強化、また新たなビジネス創出、雇用促進のために日系企業のスーダン進出支援を行っています。</p> <p>上記活動に関連し、当地におけるビジネス（例：貿易、投資、企業の進出、BOPビジネス、ソーシャルビジネス、またそれらビジネスの起業等）に係る調査および研究を行うインターン生を募集します。事務所からは必要に応じて各種企業および関係者の紹介、アドバイスをを行い、基本的にはインターン生に自主的に活動していただくこととなります。</p> <p>具体的な研修内容は、上記テーマのもとで、インターン生よりの提案を歓迎します。</p>			
2014年8月～2015年3月末までの間で1～4ヵ月間（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
何事も自ら学び、提案し、活動する積極性と当地での滞在に耐えうる気力と体力の持ち主であること。また、スーダンの文化、アラビア語に関心があり、積極的に学ぶ意欲がある者。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境 ※携帯電話の本体は貸し出し可能であるが、SIMカードや通話料は本人負担。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：4,000円／泊（月毎の賃貸物件の相場はUSD500～）    ■食費：2,000円／日    ■通勤費：600円／日 ■その他：外国人登録料5,000円、USBインターネットデバイス4,000円、インターネット接続料2000円～／月			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
※入国前にスーダンビザの取得要。取得にあたっては、入国予定の1ヶ月以上前にスーダン事務所に相談すること。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外24
■担当部署：	スーダン事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	希望実習テーマにより設定		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>当国においては、「基礎的な生活環境の向上と産業・経済の活性化を通じた平和の定着支援」を目的として、スーダン情勢の安定化及び平和の定着支援のために、中央政府又は州政府を通じた紛争被災地を含むスーダン全域の基礎的な生活環境を整備すると共に、産業・経済の活性化を通じて国家財政の立て直しを進め、もって平和的かつ持続的な好循環をスーダン国内に構築することにより、スーダンの安定化及び平和の定着を目指すため、以下3つの援助重点分野において、プロジェクトを実施中である。</p> <p>援助重点分野</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) スーダン国内の最大課題である紛争被災地の安定化、平和の定着に資する開発協力を行う。</li> <li>2) スーダン全域で極めて低い水準に留まる基礎生活向上に資する開発協力を行う。</li> <li>3) 経済・産業発展のため、産業多角化に資する開発協力を行う。</li> </ol> <p>今回のインターン生を募集するにあたり、当事務所において特定の実習テーマは用意しませんが、上記援助重点分野を参考として、幅広い研修テーマ、研修内容の提案を歓迎します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月～2015年3月中旬までの間で4ヵ月間程度（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
上記援助重点分野にかかわる専攻の者が望ましい。また、何事も自ら学び、提案し、活動する積極性と当地での滞在に耐える気力と体力の持ち主であること。また、スーダンの文化、アラビア語に関心があり、積極的に学ぶ意欲がある者。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境 ※携帯電話の本体は貸し出し可能であるが、SIMカードや通話料は本人負担。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<p>■宿泊費：4,000円／泊（月毎の賃貸物件の相場はUSD500～）    ■食費：2,000円／日    ■通勤費：600円／日  ■その他：外国人登録料5,000円、USBインターネットデバイス4,000円、インターネット接続料2000円～／月</p> <p>※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）</p>			
<b>備考・留意点</b>			
※入国前にスーダンビザの取得要。取得にあたっては、入国予定の1ヶ月以上前にスーダン事務所に相談すること。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外25
■担当部署：	スーダン事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
ネリカ稲の栽培技術、圃場管理、試験データの収集・分析			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>当国で実施中の農業再活性化計画実施能力強化プロジェクトでは、「陸稲（ネリカ）栽培の導入と拡大」に向けて、6州において2名の稲作栽培専門家が、各州の農業普及員や農民を巻き込みながら活動している。両専門家は、首都ハルツームから南東へ約200Kmのゲジラ州の州都ワドメダニに活動の拠点を置いて、広域の活動を展開している。本インターンにおいては、同プロジェクトの稲作栽培専門家の指導の下、①ネリカの栽培技術、②試験圃場管理、③試験データの収集・分析方法等についての実習を行う。</p> <p>※当国では、試験圃場といってもha単位の規模で、他のアフリカ諸国では経験できない、機械化による大規模なものである。</p> <p>また、プロジェクト運営に係るロジスティック業務等についても、JICAスーダン事務所において実務実習を行う。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2014年10月の間の2ヵ月～3ヵ月程度（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
作物学の受講経験、できれば大学の実習程度で構わないので、稲作の作業経験があることが望ましい。また、試験圃場のある当国の地方都市での滞在に耐えうる気力と体力の持ち主であること。語学については、アラビア語に関心があり、学ぶ意欲のある人。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
6州にある試験圃場調査での専門家による調査への同行等			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
プロジェクト試験圃場での現地作業に必要な器具等（作業着・靴等については自身で用意） ※実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと。 ※携帯電話の本体は貸し出し可能であるが、SIMカードや通話料は本人負担。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：4,000円／泊（月毎の賃貸物件の相場はUSD500～）    ■食費：2,000円／日    ■通勤費：600円／日 ■その他：外国人登録料5,000円、USBインターネットデバイス4,000円、インターネット接続料2000円～／月			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
※入国前にスーダンビザの取得要。取得にあたっては、入国予定の1ヶ月以上前にスーダン事務所に相談すること。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外26
■担当部署：	セネガル事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	セネガル理数科教科改善プロジェクトフェーズ2		
<b>テーマ</b>			
セネガル国「理数科教科改善プロジェクトフェーズ2」における授業研究およびエンドライン調査にかかる業務補助			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>セネガルには、クラスター研修(GAP)と呼ばれる複数の学校がいくつか集まって毎月実施する教員自主勉強会の制度があったが、年々形骸化し、現職教員の研修の場としては十分に機能していなかった。そこで、「理数科強化改善プロジェクト」においては、このクラスター研修の枠組みを活性化し、将来的に継続可能な現職教員研修システムとして確立するため、2007年12月に3州の小学校を対象としたプロジェクトとして開始された。</p> <p>3州のパイロット地域でクラスター研修を活性化することに成功したため、2011年から同プロジェクトフェーズ2として全国展開することとなり、セネガル全国の全ての小学校を対象とした現職教員研修を実施している。2011年からは研修内容も進化し、学校またはクラスターレベルで理数科教科を対象としたいわゆる「授業研究」(※)を定期的を実施しており、教員からも実践に繋がる研修として高い評価を得ている。一方、授業研究を通じて授業の質を向上させるには、教員間の授業に関する協議の質が重要であるが、現状においては協議の質は学校により様々であり、協議の質をどのように高めていくかが、今後、セネガルで授業研究を定着させていく上での大きな鍵となる。</p> <p>そこで、本インターンシップでは、授業研究を実施する数校をケーススタディとして、授業研究においてどのようなことが話し合わせ、どのようなことを教員たちが学んでいるかを分析し、プロジェクト活動向上のための提言をしていただくことを期待している。</p> <p>※現職教員が模擬授業を実施し、授業の進め方や教授法、生徒とのインタラクション手法等について議論し、改善点を見出すことでより良質な授業を提供しようとする取り組み。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2015年1-3月の間の2~3ヶ月間			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px; height: 15px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
仏語によりコミュニケーションができることが必須。(通訳なしで活動していただくことを想定しています。) 教員資格・経験、または教育分野における学位があると望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
教員が実施する授業研究 エンドライン調査(学力調査)			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
現場に近い地方都市での勤務を想定しています。			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：7,000円/泊    ■食費：1,500円/日    ■通勤費：500円/日 ■その他：査証 52ユーロ			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です(但し、一部規程の経費補助あり)			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外27
■担当部署：	セネガル事務所	<b>募集人数</b>	2人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
JICAセネガル事務所における業務全般補助			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>JICAセネガル事務所は約50名のスタッフを擁し、計7カ国（セネガル、モーリタニア、マリ、ギニア、ギニアビサウ、ガンビア、カーボベルデ）における事業を所管している事務所です。</p> <p>セネガル国に対しては、平成25年9月に改定された国別援助方針に則り、「持続的経済成長の後押し（経済発展のための基盤整備、第一次産業の振興）」と「基礎的社会サービスの向上（保健、教育）」を重点分野として協力を行っています。これらの目標に向かってセネガル政府機関や国際機関等と協議をしながら案件形成・実施を行い、さらには近隣国との域内協力を見据えた視野の広い活動実施に努めているところです。</p> <p>今回のインターンシップでは、みなさまにはセネガル事務所で勤務するJICAスタッフの業務補助を行っていただくことを想定しています。所内での他スタッフとの共働を通じ、①事務所で勤務するJICAスタッフによる案件形成・管理等のための先方政府とのやり取り等、日々のダイナミックな動きを体験することができる、②どのようにして組織決定がなされているのか知ることができる、③ODA資金の流れを把握することができる、の3点を主な目的とし、将来の国際協力人材としての第一歩としていただくことを考えています。また、インターンシップ開始前にみなさまからの要望を聴取する機会を設け、可能な限り要望に沿った形でのインターンシップにするつもりであります。</p> <p>★参考情報：  <a href="http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html">http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html</a>  <a href="http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/africa/senegal/index.html">http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/africa/senegal/index.html</a></p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月から9月までの間で1～2か月（相談の上決定）。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
1. 仏検2級、DELF B1 程度のフランス語力を有する者。 2. 西アフリカに関する基礎知識または高い関心を有していること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
インターン実施時期に行う行事（セミナーや大規模会議等）へは原則参加。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 7,000円／泊    ■食費： 1,500円／日    ■通勤費： 800円／日 ■その他：査証費 52ユーロ			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外28
■担当部署：	セネガル事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	希望実習テーマにより設定		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>セネガル国におけるJICAの支援は、平成25年9月に改定された国別援助方針に則り、「持続的経済成長の後押し（経済発展のための基盤整備、第一次産業の振興）」と「基礎的社会サービスの向上（保健、教育）」を重点分野として協力を行っています。これらの目標に向かってセネガル政府機関や国際機関等と協議をしながら案件形成・実施を行い、さらには近隣国との域内協力を見据えた視野の広い活動実施に努めているところです。</p> <p>今回のインターンシップを募集するにあたり、特定の実習テーマは用意いたしておりません。みなさまからのセネガル国におけるJICA事業に関連する幅広い提案を歓迎いたします。</p> <p>★参考情報：  <a href="http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html">http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html</a>  <a href="http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/africa/senegal/index.html">http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/africa/senegal/index.html</a></p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月から11月までの間で1～2か月（相談の上決定）。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
1. 仏検2級、DELF B1 程度のフランス語力を有する者。 2. 西アフリカに関する基礎知識または高い関心を有していること。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
希望実習テーマにより相談に応じる。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
執務スペース、PC、インターネット環境			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 7,000円/泊    ■食費： 1,500円/日    ■通勤費： 800円/日 ■その他：査証費 52ユーロ			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外29
■担当部署：	マラウイ事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	シレ川中流域における農民による流域保全活動推進プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
普及アプローチの相違性と効果の比較・検証			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>マラウイ国最大の河川であるシレ川の中流域では、国内の電力生産の大部分をまかなっている。しかしながら人口増加による耕作面積の拡大、自己消費のための薪の採集、最大の商業都市であるブランタイヤ市のエネルギー需要を満たすための薪炭材の生産等による同地域の森林伐採が進んでいる。更には多くの農家が土壌保全に資する技術を用いて主食であるメイズの栽培を行っていない。このため同地域では土壌浸食が進行し、水力発電所の発電能力が低下しているため、国家発展の阻害要因の一つとなっている。</p> <p>これらの問題を改善するために様々なドナーがシレ川中流域の環境改善のための活動を実施している。JICAでは、2002年より同地域における技術協力を開始し、2007年から2012年まで「シレ川中流域における村落新興・森林復旧プロジェクト（通称COVAMSプロジェクト）」を実施し、農民による土壌保全活動をブランタイヤ県2地域で広めることに成功した。そして2013年より後継案件として対象地域を拡大し、「シレ川中流域における農民による流域保全活動推進プロジェクト（通称COVAMS2プロジェクト）」が行われている。</p> <p>COVAMS2プロジェクトでは、COVAMSプロジェクトで開発されたCOVAMSアプローチを利用した流域保全活動の制度化を目標としている。当該アプローチは、農民を研修講師として養成し（リードファーマーと呼ばれる）、その他の農民に対する普及を行う方法を取るが、この方法は当国農業普及局のアプローチと類似しており、両アプローチの違いが当国政府関係者に十分に認識されていない。アプローチの相違性と効果の比較・検証は制度化に資すると考えられ、インターンには普及アプローチの比較・検証を期待する。</p> <p>※参考：<a href="http://www.jica.go.jp/project/malawi/001/index.html">http://www.jica.go.jp/project/malawi/001/index.html</a></p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年8月～11月、2～4ヶ月程度が望ましい。			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC730点以上、TOEFL550点以上（CBT2134点、iBT79点）、IELTS6.0以上、英検準1級以上、国連英検B級以上レベルの英語力</li> <li>・普及アプローチの比較・検証をする知識・スキル</li> <li>・関係者・農民に対するワークショップのスキル</li> </ul>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
プロジェクト活動全般			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト事務所内の執務スペース（インターネット利用可）</li> <li>・調査にかかるフィールド、関係機関への移動のための車両</li> <li>・必要な関連資料・関連情報</li> <li>・ワークショップ等フィールドにおける活動のコンタクトパーソン及び現地語-英語通訳の紹介</li> <li>・携帯電話（SIMカード、通話料はインターン本人が購入）</li> </ul> <p>※PCはインターン本人が持ち込み。</p>			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■宿泊費： 5,000-7,000円/泊</li> <li>■食費： 1,000-1,500円/日（昼直・夕食外食の場合、夕食自炊可能な宿もアレンジ可）</li> <li>■通勤費： 150-300円/日（公共交通機関利用時）</li> </ul> <p>※タクシーを利用して宿泊地より事務所まで移動する場合、通勤費は一日3,000円程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■その他：1カ月以上の滞在は国内で査証延長の手続きが必要</li> </ul> <p>※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）</p>			
<b>備考・留意点</b>			
勤務地はプロジェクト事務所のあるマラウイ国南部ブランタイヤ市			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外30
■担当部署：	モザンビーク事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	希望実習テーマにより設定		
<b>テーマ</b>			
モザンビークにおける農業開発についてインターン生からの提案により設定			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>モザンビークに対するJICAの支援は、「産業開発・雇用促進を通じた貧困削減」を目標に掲げ、同目標を達成するために、回廊開発を通じた「地域経済活性化」、保健や教育、水・衛生分野などの支援を行う「人間開発」、災害に強い国づくりを目指す「防災・気候変動対策」を援助重点分野と位置づけています。その中でも「ナカラ回廊開発・整備プログラム」を最重点プログラムとしており、本年1月、当国を訪問した安倍総理は、ナカラ回廊地域を中心に向こう5年間で700億円の協力を行う旨表明しています。</p> <p>モザンビークの農業部門は、GNPの約27%、総輸出額の約10%を占め、労働人口の約80%が従事しています。一方、当国で農耕可能とされている国土面積は、3,600万ヘクタールですが、このうち実際に耕作されている面積は約16%の570万haに過ぎないと言われていています。特に同国北部のナカラ回廊地域に広がる熱帯サバンナ地域は、一定の雨量と広大な面積を有する農耕可能地に恵まれており、農業生産拡大のポテンシャルは高いと考えられています。</p> <p>こうした背景から「日本・ブラジル・モザンビーク三角協力による熱帯サバンナ農業開発プログラム」（ProSAVANA）が立ち上げられ、同地域の農業開発を進め、地域の小農の貧困削減と食糧安全保障の確保、民間資金を活用した地域経済開発を目指しています。</p> <p>今回のインターンシップでは、特に北部地域を中心に現地の小農が直面する課題を調査して頂くことを想定していますが、農村地域の農村開発を研究されたい方からの幅広い提案を歓迎します。</p> <p>調査事例1：農協の実態調査 —国内北部における農協の組織・活動についての情報収集、分析  調査事例2：農業投入財の市場調査 —肥料、農薬、機械等の農業投入財に関する情報（マーケット、流通ルート、農村での使用状況等）収集、分析。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月中旬から10月中旬を除く1～3カ月程度			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可    理由： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10月15日に大統領選挙が予定されているため（安全対策の観点）。</span>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
当国ではポルトガル語が公用語であるため、ポルトガル語もしくはスペイン語である程度のコミュニケーションが取れることが望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
参加実習テーマにより相談に応じます。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
【JICAモザンビーク事務所の場合】執務スペース、PC、インターネット環境 【JICA事務所以外での実習の場合】実習場所の環境により設定			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
【首都マプト滞在の場合】 ■宿泊費：3,500円程度／泊    ■食費：1,000円／日    ■通勤費：100円／日 ■その他： ※首都以外に滞在の場合は、適宜情報提供します。 ※1カ月以上の滞在の場合は、マルチ査証であっても1カ月毎に滞在期間延長のために、一度国外に出る必要があります（マプトから南ア国境まで陸路で約3時間）。南ア移動に係る交通費が別途必要になります。			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外31
■担当部署：	モザンビーク事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	希望実習テーマにより設定		
<b>テーマ</b>			
インターン生からの提案により設定			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>モザンビークに対するJICAの支援は、「産業開発・雇用促進を通じた貧困削減」を目標に掲げ、同目標を達成するために、回廊開発を通じた「地域経済活性化」、保健や教育、水・衛生分野などの支援を行う「人間開発」、災害に強い国づくりを目指す「防災・気候変動対策」を援助重点分野と位置づけています。その中でも「ナカラ回廊開発・整備プログラム」を最重点プログラムとしており、本年1月、当国を訪問した安倍総理は、ナカラ回廊地域を中心に向こう5年間で700億円の協力を行う旨表明しています。</p> <p>今回のインターンシップを募集するにあたり当事務所において特定の実習テーマを用意しませんが、モザンビークの発展や安定に結びつく協力手法や戦略を研究されたい方の幅広い提案を歓迎します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月中旬から10月中旬を除く1～3カ月程度			
<input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可    理由： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10月15日に大統領選挙が予定されているため（安全対策の観点）。</span>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
当国ではポルトガル語が公用語であるため、ポルトガル語もしくはスペイン語である程度のコミュニケーションが取れることが望ましい。			
<b>参加（同行）可能な行事・視察等</b>			
参加実習テーマにより相談に応じます。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
【JICAモザンビーク事務所の場合】執務スペース、PC、インターネット環境 【JICA事務所以外での実習の場合】実習場所の環境により設定			
<b>【在外ポスト】現地生活費（参考情報）</b>			
【首都マプト滞在の場合】 ■宿泊費：3,500円程度／泊    ■食費：1,000円／日    ■通勤費：100円／日 ■その他： ※首都以外に滞在の場合は、適宜情報提供します。 ※1カ月以上の滞在の場合は、マルチ査証であっても1カ月毎に滞在期間延長のために、一度国外に出る必要があります（マプトから南ア国境まで陸路で約3時間）。南ア移動に係る交通費が別途必要になります。			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外32
■担当部署：	ニカラグア事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	初等教育算数指導力向上プロジェクトフェーズ2		
<b>テーマ</b>			
「初等教育算数指導力向上プロジェクトフェーズ2」における算数指導ガイド改定と授業研究を通じた指導力向上			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>MGDs、Education For All等の国際潮流の中で、ニカラグアにおいても教育の量的拡大を柱とした教育政策が実施され、初等教育就学率の改善等をもたらした一方で、教育政策のもう一方の柱である教育の質については、周辺地域学力調査の結果下位に位置づけられており、特に初等算数教育の「質」の向上は当国における重要課題となっている。</p> <p>2006年から5年間、教育省はJICAの技術協力支援を受けて「初等教育算数指導力向上プロジェクトフェーズ1」を実施した。同フェーズでは、小学校用教材（初等教育児童用教科書・教員用指導書）作成、教員養成用算数指導法ガイド作成、パイロット地区であるチナンデガ教員養成校における算数指導法講座の改善等を実施し、小学校用教材は国定教科書として承認され、教育省により全国の小学校へ配布された。</p> <p>これら成果を受け2012年9月より第2フェーズが開始され、全国8教員養成校における算数指導法講座の改善を目的として、新カリキュラムに即した教員養成用算数指導法ガイド改定、研修と授業研究を通じた指導法の改善等の活動を行っている。</p> <p>今回募集のインターンは、本プロジェクトの特徴である教員養成用算数指導法ガイド改定作業に関して理解を深めることを目的とし、以下の研修を行う。なお、研修時のプロジェクト実施状況、インターンの希望と能力に応じつつ、研修内容は柔軟に変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導ガイド改定作業への参加</li> <li>2. 授業研究を通じた算数指導法改善活動への参加</li> <li>3. 6月実施予定全国セミナー後の指導法・教科書使用状況モニタリングへの同行</li> <li>4. 評価指標の入手とデータ整理作業への参加</li> <li>5. 専門家補助業務</li> </ol> <p>★参考情報： フェーズ2 ホームページ <a href="http://www.jica.go.jp/project/nicaragua/006/index.html">http://www.jica.go.jp/project/nicaragua/006/index.html</a></p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年9月中旬から12月上旬の2～3か月間（実施期間については相談に応じる）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育開発分野を専攻している者で、国際協力・開発援助に関する経験を有することが望ましい。</li> <li>・日常会話、業務に関する簡単な意思疎通、簡単な資料の理解が出来る程度のスペイン語能力が必要。</li> </ul>			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員養成校ならびに一部小学校における研究授業と「算数とその指導法」講座視察</li> <li>・第2回算数とその指導法オリンピック実施視察</li> <li>・各種評価活動</li> </ul>			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
インターネット環境、執務スペース、携帯電話（国内通話用）			
<b>【在外*】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：3,000円/泊    ■食費：800円/日    ■通勤費：500円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外33
■担当部署：	エルサルバドル事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	同上		
<b>テーマ</b>			
移民経済のダイナミズムを開発協力に応用する方法の検討（具体的なテーマはインターン生からの提案により設定）			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>当国では1979年から1990年まで続いた内戦の中で、多くの人口がアメリカ合衆国をはじめとする諸外国に流失し、内戦終結後も経済復興の立ち遅れや自然災害による経済難から「出稼ぎ移民」は増加の一途を辿っています。わずか600万人程度の当国の人口に対し、海外移民人口はその2割を超えとも言われており、エルサルバドルの政治経済を考えると移民の存在は非常に重要です。特に経済面においては、出稼ぎ移民が本国に送る送金は2012年にはGDP比17%に達し（IMF）、当国の最も重要な外貨収入源となっています。このような現実を考えれば、もはや移民経済がもたらす影響を考慮せずに当国の経済発展を論じることは出来ません。</p> <p>一方、JICAは当国への協力方針の中で、経済発展の立ち遅れた当国の東部地域を重点対象地域としており、同地域の移民の多さを所与の条件としながら、地域住民の生計向上に直接的に資する農業や観光振興等分野での協力を行ってきました。こうした個別の取組成果のより効果的な発現と上位目標である東部地域の経済開発のために、移民経済のダイナミズムの活用方策（例えば、移民送金を活用した経済資本形成、投資促進）の必要性が認識されていますが、具体的な案件形成には至っていません。</p> <p>このような状況を踏まえ、今回のインターンシップでは、移民が一国の経済にもたらすダイナミズムの研究に関心がある方から、移民経済を取り込んだ協力を検討する際に役立つ研究・分析に関する提案を募集します。JICA事務所では現在、移民送金を活用した新しい協力案件の可能性を模索しており、移民送金に関するテーマが理想ではありますが、今回の募集ではそういったテーマにこだわらずとも、「移民と経済開発」という切り口から所掌国の発展や安定に結びつく幅広いテーマを歓迎します。</p> <p>（キーワード：経済開発、出稼ぎ移民、郷里送金）</p>			
2014年7月中旬～2014年11月の間で1か月程度（テーマに応じ若干の延長は応相談）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input style="width: 150px;" type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
TOEIC730点以上に加え、極力スペイン語が話せることが望ましいです。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
移民関係の政府機関や現地研究者等との意見交換への同行、現地調査（研究の必要性に応じ、事務所業務の負担にならない範囲内で）			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
JICA事務所内の執務環境（デスクとPC）、現地携帯電話貸与			
<b>【在外ホスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：4,000円-5,000円／泊（アパート：10万円弱／月もあり）    ■食費：1,000円-1,500円／日（ただし現地食） ■通勤費：1,000円／日（安全管理のため常時タクシー移動）			
※事務所員の業務に伴う移動の同行には事務所の車両を利用。 ※宿泊費を含め、日常生活費は月20万円程度が必要です。 ※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外34
■担当部署：	ホンジュラス事務所	<b>募集人数</b>	1人
■受入先：	「国家保健モデル」に基づくプライマリーヘルスケアプロジェクト		
<b>テーマ</b>			
ホンジュラス農村地域を中心とした地域保健活動のためのコミュニティ調査と活動計画策定支援			
<b>インターンシップ内容（800字程度）</b>			
<p>所得格差、地域格差が大きく、国民の約6割が貧困層に位置付けられるホンジュラスにおいて、予防に重点を置いた保健医療サービス提供側の量と質の向上、および住民側の健康に対する予防意識と行動変容を促進し、行き届かない地方レベルの医療サービス供給体制の強化と住民の健康レベルの向上のためのプライマリーヘルスケア（PHC）を実証的に導入する「『国家保健モデル』に基づくプライマリーヘルスケアプロジェクト」が2013年4月から2018年4月まで実施されています。</p> <p>当プロジェクトは協力対象地域としてエル・パライス県およびレンピーラ県の2県10市で活動を展開しており、これら対象地域において家庭保健チームとともにコミュニティ調査、および同調査結果に基づく活動計画策定のための支援を行える方を応募します。途上国での地方の生活に支障がなく、体力に自信のある方、生活上のスペイン語能力に支障のない方からの応募を期待します。</p>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2015年3月中旬の間で1～4カ月間程度（ただし2014年12月下旬～2015年1月上旬を除く）			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
地方での活動が中心となり、ホンジュラス人医師、看護師等で構成される家庭保健チームと行動することとなるため、途上国における地域保健・PHC活動への関心を有し、スペイン語力および地方での生活を苦とされない体力と精神力が求められます。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
協力対象地域2県における家庭保健チームと行うコミュニティ調査等（時期によっては日本人専門家（首都テグシガルパ市のプロジェクト事務所に2名）の同行も可能性あり）。また、時期によっては首都テグシガルパ市のプロジェクト事務所でプロジェクト活動の支援等を行っていただくことも想定しています。			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
テグシガルパ市ではプロジェクト事務所執務スペースを提供可能。また、地方2県では常時でないものの県保健事務所や保健所など公的医療施設でのスペースが使用可能な場合もあります。			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費：5,000円／泊、    ■食費：1,500～2,000円／日    ■通勤費：1,000円／日（テグシガルパ市での移動はラジオタクシーの使用が必須） ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です（但し、一部規程の経費補助あり）			
<b>備考・留意点</b>			
首都テグシガルパ市での移動については、日本人専門家等の同行を基本とし、プロジェクト供与車両もしくはラジオタクシーでの移動が義務付けられます。また、テグシガルパ市に限らず、インターン活動中は、JICAホンジュラス事務所の定める安全管理規則を遵守して頂きます。			

<b>担当部署・受入先</b>		<b>ポスト番号</b>	26-在外35
■担当部署：	ドミニカ共和国事務所	<b>募集人数</b>	1～2人
■受入先：	カリブ地域における漁民と行政の共同による漁業管理プロジェクト		
<b>テーマ</b>			
FAD(集魚装置)漁業と魚籠漁業の自然科学および社会経済調査			
<b>インターンシップ内容 (800字程度)</b>			
<p>当該プロジェクトは東カリブ諸国機構(OECS)6カ国及びカリブ地域において、「漁民と行政の共同による漁業管理(Co-Management)」のために必要な漁業情報を収集し、関係者の合意形成及びルール/規則遵守のしくみを形成・実証することにより事業実施6カ国(セントクリストファー・ネイビス、アンティグア・バーブーダ、ドミニカ連邦国、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島、グレナダ)の状況に適した「漁民と行政の共同による漁業管理アプローチ(Co-Managementアプローチ)」の開発を図りカリブ地域への普及に寄与するものである。</p> <p>このような背景の元、特に当プロジェクトが所在するアンティグア・バーブーダではFAD漁業と魚籠漁業についての活動が行われている。同国では従来サンゴ礁域を対象とした既存漁業である魚籠漁業と底延縄漁業を営んでおり、浮遊魚・回遊魚は利用しておらずFAD漁業を導入した場合の社会経済的な影響を把握するためには適切な地域である。また魚籠漁業では、資源の枯渇を防ぎ持続的な漁業を目指すため次の3つの活動：1、ゴーストフィッシング対策、2、幼魚脱出口の導入、3、カリビアンスパイニーロプスターの漁獲データの確認作業をおこなっている。</p> <p>今回要望するインターンは、活動の特徴を生かし、FAD漁業または魚籠漁業の調査に加わり、その手法をOJTで学ぶことを目的とし、下記の業務の中からプロジェクトの状況とインターンの希望と能力に応じて、実習を割り当てることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、漁民インタビュー調査(社会的調査)</li> <li>2、既存漁業の経済調査(経済調査)</li> <li>3、FAD漁業導入者の経済調査(経済調査)</li> <li>4、魚籠漁業の上記3つの調査(自然科学調査)</li> <li>4、その他専門家補助業務</li> </ol>			
<b>受入時期・期間</b>			
2014年7月中旬～2015年3月末の間で1～3カ月間程度(ただし2014年12月下旬～2015年1月上旬を除く)			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可    理由： <input type="text"/>			
<b>応募資格以外に必要な要件</b>			
英検2級以上、TOEIC640点以上、またはTOEFLiBT61(PBT500点、CBT173)以上、IELTS5.0相当の英語力を有する者で、数学教育または物理学教育、社会調査、統計等に関心を有する者。途上国での勤務や国際協力事業への関与(大学における研修員受入等)の経験があることが望ましい。			
<b>参加(同行)可能な行事・視察等</b>			
専門家が実施する講習会や会議への参加(プロジェクト対象国6ヶ国) 域内情報共有セミナーへの参加(但し、実際の実習期間中に開催された場合に限る)			
<b>提供可能な執務環境等</b>			
机・椅子(実習で使用するPCはインターン自身が持ち込むこと、携帯電話の本体は貸出し可であるが、SIMカードや通話料は本人負担)、ライフジャケット、潜水用重機(BCD, Regulator, Weight)			
<b>【在外ポスト】現地生活費(参考情報)</b>			
■宿泊費： 3,000円/泊    ■食費： 2,000円/日    ■通勤費： 500円/日 ■その他：			
※インターンシップに要する経費は原則自己負担です(但し、一部規程の経費補助あり)			
<b>備考・留意点</b>			
インターンは原則としてアンティグア・バーブーダ水産局でJICA専門家の指導を受けながら実習する。実習経費、プロジェクト業務の都合次第だが、域内に専門家とともに出張する可能性もある。			